

元気で!
頑張る!

中小企業 支援事例集

— 令和6年度 —

技術開発から販路開拓、創業から事業承継までコーディネーター、推進員や専門家などが
関係セクションと一体となって一貫した支援をします。



創 業

01	豊かな自然とつながり免疫力を高め、心身の健康寿命を延ばす鍼灸院の開設	(同) 和とろん	経営支援部	1
02	地域の子育て課題を解決する夜間・休日対応型託児所の創業支援	(同) はいちいず	経営支援部	2
03	手づくりの美味しさを届けたい。若者にも人気の和菓子屋を創業	味菓町しばらく	長野県よろず支援拠点	3

経 営 革 新

04	簡易洗面台「RESCUBE」の開発・事業化	(有)B・F・G	経営支援部	4
05	ピックアップ自社開発によるエレキギターのOEM等の生産・販売拡大	(有)ツバサ	経営支援部	5
06	成長に限界を感じていた産業から新分野への挑戦へ！	(有)横河計器製作所	長野県よろず支援拠点	6
07	原理原則に則った在庫管理でキャッシュフローを改善しました	(株)田中機器製作所	長野県よろず支援拠点	7
08	入店客数3倍、売上はコロナ前の2倍となったリブランディング効果	(有)滝屋本店	長野県よろず支援拠点	8
09	収穫期以外でも安定収益化！農園経営の新たな挑戦	須田農園	長野県よろず支援拠点	9

技術・製品開発

10	バイオマスプラスチックによる資源循環の試み	上田プラスチック(株)	グリーンイノベーション推進部	10
11	サポイン事業での支援 水素社会に向けた耐水素脆性結晶微細化ステンレス棒材の開発	(株)小松精機工作所	グリーンイノベーション推進部	11
12	産学官連携により「心臓リハビリテーション支援システム」を開発	(株)ズー	信州医療機器事業化開発センター	12
13	チタン合金の加工手法開発により加工時間短縮と刃具寿命延長を達成	多摩川パーツマニュファクチャリング(株)	航空機産業支援センター	13
14	「すんき」漬液を有効活用した健康機能商品の開発支援	おんたけ有機 (同)	次世代産業部	14
15	無機結晶材料による地下水浄化システムの開発 ～信州からグローバルへ～	ヴェルヌクリスタル(株)	企画連携部	15
16	産学官連携から「スマート工場」へ ～スーパー中小企業に向けて～	(株)ソルティスター	ITバレー推進部	16
17	「Dual Detector "IBUTSU" (AI異物検査機)」～スマート検出システムに向けて	ハリコム(株)	上田センター	17

販 路 開 拓

18	ベトナム国内で広がるであろうモノづくりの自動化ニーズを捉える	野村ユニソン(株)	マーケティング支援部	18
19	新製品の製造請負先を開拓して販売開始しました	川北商店(株)	マーケティング支援部	19
20	初のドイツ展示会出展で欧州次世代自動車市場への挑戦！	(株)ハヤシテクノ	マーケティング支援部	20
21	自動車部品メーカーへ技術提案商談会で自社技術を直接アピール	信州吉野電機(株)	マーケティング支援部	21
22	新規設備導入で機械加工製品提供にチャレンジ	KAISHIN INDUSTRY THAILAND (本社 カイシン工業(株))	マーケティング支援部	22
23	商工会議所と連携し新規部材調達先の斡旋紹介	トヨセット(株) 駒ヶ根工場	マーケティング支援部	23
24	商工会と連携して販路開拓支援を実施	丸善(株)	マーケティング支援部	24
25	農業不使用のこだわり生産者が、首都圏のバイヤーに挑む！	やよい農園	マーケティング支援部	25
26	展示会出展で自社商品の新たな価値に気づきました！	(株)綿半三原商店	マーケティング支援部	26
27	支援メニューの活用と目標管理シートで持続可能な経営を模索	(同) ゆずすけ	マーケティング支援部	27
28	新たなマーケット（首都圏の飲食店チャネル）への販路拡大のためのマッチング	(有)ふくろや	マーケティング支援部	28
29	信州生姜シロップの商品価値を高め、魅力を伝えるトータル支援	シナノジンジャー	長野県よろず支援拠点	29
30	サナギタケ冬虫夏草開発製品の事業化及び販路開拓	(株)マルベリー	上田センター	30
31	国内最大級「2024国際航空宇宙展」に出展 有望商談を推進	ゴコー電工(株)	航空機産業支援センター	31

事業承継・引継ぎ

32	新たな販売チャネルの構築を見えた親族内事業承継	ロリーポップ	長野県事業承継・引継ぎ支援センター	32
33	事業承継計画策定支援を機会に今後の事業展開・方向性を整理・明確化	(有)昭和	長野県事業承継・引継ぎ支援センター	33
34	事業承継計画策定により親子間のスムーズな引継ぎを支援	(株)燕	長野県事業承継・引継ぎ支援センター	34
35	事業承継計画策定で芽生えた後継者の自覚	アシストプラン(株)	長野県事業承継・引継ぎ支援センター	35
36	100年企業の人事ブランディング「育ち・育てる」売上・採用・事業拡大を実現	巴協米リネン(株)	長野県よろず支援拠点	36

研究会・セミナー

37	新商品開発研究会 個別企業研究で「毛髪探偵」の開発・販売戦略作り	コトヒラ工業(株)	諏訪センター	37
38	NICE長野コラボネットは意欲ある企業を産学官連携で支援します		長野センター	38
39	デザイン思考ワークショップの開催～新しい事業や価値の創造、地域創生のために～		松本センター	39
40	ロボット活用による自動化を目指す企業向けに、先進企業見学会を開催		伊那センター	40
41	「サーキュラーエコノミーイノベーションフォーラム (Matching HUB NAGANO) 2024」を開催		グリーンイノベーション推進部	41

豊かな自然とつながり免疫力を高め、
心身の健康寿命を延ばす鍼灸院の開設

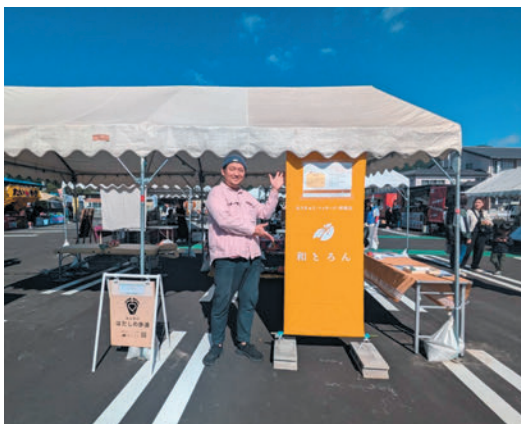
事業者 合同会社和とろん

●代表者／佐藤 大輔 ●所在地／上田市武石小沢根209-3
●従業員数／1名 ●連絡先／ayayur@gmail.com ●URL／https://watoron.com/

事業内容 豊かな自然とつながり免疫力を高め、心身の健康寿命を延ばす

▶ 企業の現状及び支援の経緯

「和とろん」とは、「自然と身体がつながり和む」ことを意味します。上田市武石地域で鍼灸マッサージ業として開業し、地域の方々の健康維持に貢献しています。社長の佐藤様は豊富な経験と実績があり、地域外からの顧客流入も期待されています。令和6年12月時点で鍼灸マッサージの施術場所は改装され、ホームページも作成されて「和とろんオープンニングキャンペーン!! 12月～2025年3月末まで」とお得な割引チケットを販売しています。また、イベント出展については、上田市武石地域総合センターにぎわい広場のオープン記念式典に出展し、予約の顧客さんも出てきました。予定の事業である素足で歩くことで健康になる「はだしの歩道」については、まもなく完成というところまで来ています。今後は、都会の方に自然豊かな武石地域に来ていただき、ゆったりと心身を癒すリトリートプログラム事業の展開と、同社を多くの方に認知してもらう広報が課題です。



報が課題です。

▶ 実施した支援内容

ソーシャル・ビジネス創業支援金の事業計画書を確認して気づいた点は、事業内容が長文で書かれ、複数の事業の記載があるものの、それぞれの内容が分かりづらくなっていました。そこで、各事業が明確に分かるよう、事業ごとに箇条書きで列挙することに

しました。地域の課題については、地域の皆様（特に高齢者）の健康維持に取り組むことでしたが、相談した結果、課題を深掘りし、地域の医療費や介護費用などの負担の増大を食い止める点にあるという点を明記することにしました。

また、補助対象経費の判断等については、いくつか相談があり、特に、工事に対する見積書等の明細の記載方法について助言しました。出張鍼灸マッサージの営業の参考として、近隣の別所温泉は湯治客が多く、需要がある可能性についても助言しました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

支援の結果、ソーシャル・ビジネス創業支援金の一次募集で採択となり、事業開始に向けて順調に準備を進めることができました。ホームページも完成し、施術所の改装や備品整備もほぼ終え、施術所としての保健所登録も終わりました。

地元の自治センターから、地域の健康改善イベントについての相談の依頼もあるそうで、まもなく完成する「はだしの歩道」の効果が楽しみです。



はだしの歩道整備中

支援を受けて 代表社員 佐藤 大輔 氏

初めての創業で不安でしたが、親身にアドバイスをいただけ大変心強いです。特に、地域との連携が重要視されていたおかげで、事業前から市や地元自治体、企業、自治会の方々と関係性を築き、ご協力をいただけたことが、現在の大きな糧となっています。移住者、創業者の挑戦を後押しし、夢を叶える機会を与えてくださっていることに深く感謝します。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5028 📠 026-227-6086

✉ keieishien@nice-o.or.jp

地域の子育て課題を解決する 夜間・休日対応型託児所の創業支援

事業者 合同会社はいちいず

●代表者／野村 由衣 ●所在地／松本市深志3丁目5-16
●従業員数／4名 ●連絡先／0263-88-3805 ●URL／<https://hichiizu.com/>

事業内容 夜間や休日に特化した保育サービス

▶ 企業の現状及び支援の経緯

代表者はこれまで、県内外で保育園、託児所、放課後等デイサービス事業に長年携わってきました。その中で、地元地域の子育て支援に対する認知度が低く、特に夜間保育に多くの課題があることを実感されていました。こうした課題を解決するため、代表者は地元での創業を決意しました。創業にあたっては、まず事業所の場所を確保する必要があります。また、認可外保育施設としての認定を受けるためには、施設の改築や設備投資が必要となることから、こうした資金面の課題を解決するため、ソーシャル・ビジネス創業支援金の申請を検討し、令和6年5月末に当機構へご相談いただきました。



託児スペース

▶ 実施した支援内容

当初の創業計画では、ワーキングマザーやシングルマザー、医療従事者を対象に、平日夜間や土日に保育サービスを提供することが計画されていました。しかし、ソーシャル・ビジネス創業支援金の採択においては、「地域課題の解決」という視点が重要であり、地域にどのような課題があり、それをどのように解決



するのかをさらに深掘りして整理することをお願いしました。また、開設場所が松本市内に決まったことで、対象を病院関係者だけに限定せず、市民芸術館の利用者や母親だけでなく父親、さらには介護に携わって家族まで広げることが提案しました。

創業準備において、場所の決定や地域課題の整理、解決策の具体化に時間を要するため、一次公募ではなく二次公募での申請を提案しました。さらに、適切な場所選定をサポートするため、金融機関とも連携して支援を行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

当支援金の二次公募において採択され、11月に託児所を開設しました。現在は、夜勤が必要な方や土日祝日に子どもを預ける場所がなく困っている方、自分の時間を必要としている方などに利用されています。

開業場所については、当初の予定地ではなく、松本市内で理想的な一軒家を見つけたことで、より多くの方に利用していただける可能性が広がりました。平日夜間や土日保育の提供日時は計画通りですが、利用対象となる家族層の拡大も見込まれています。今後は、毎月さまざまなイベントを企画し、利用者の満足度（安全・安心）向上を最優先としながら、認知度向上や広報活動にも力を入れ、さらに多くの方々に利用いただけるよう取り組んでいく予定です。



園児と家族イベント

▶ 参画機関

●取引先金融機関

支援を受けて 代表 野村 由衣氏

課題解決のために挑戦したい一方、起業をするにあたりとても不安な気持ちでいっぱいでした。支援員さんに相談したところ、金融機関に繋げていただいたり、書類だけではなく多方面からご指導いただき、支援員さんの存在なくしては採択、開業までたどりつけなかったと感じております。支援金は備品設備や人件費に使用しました。感謝しております。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5028 📠 026-227-6086

✉ keieishien@nice-o.or.jp

手づくりの美味しさを届けたい。 若者にも人気の和菓子屋を創業

事業者 味菓町しばらく

●代表者／春日 雅晃 ●所在地／上伊那郡箕輪町三日町1092-9
●従業員数／2名 ●URL／https://www.instagram.com/mikkamachi_shibaraku/

事業内容 和菓子の製造・小売業



▶ 企業の現状及び支援の経緯

令和6年8月にオープンした和菓子店です。箕輪町三日町の住宅地にトレーラーハウスを改装した厨房兼店舗を置いています。地元密着をモットーとし、屋号は地名になぞらえて「味菓町（みっかまち）」としました。

店主の春日様はこれまで県内外の和菓子店に長年勤務し、その製菓技術を磨いてきました。手づくりの和菓子をでき立ての状態で味わってみたいとの思いから、餅や饅頭、上生菓子など、あえて日持ちのしない商品を中心とした品揃えにしています。また、県内の農家や酒蔵などとコラボレーションした商品も人気です。

当拠点に5月頃、商品ラインナップやパッケージについてのご相談をいただいたことから支援をスタートしました。創業初期ということもあり、コストを抑えながらもお客様にお店の特長を伝え、価値を感じてもらえるような工夫を一緒に考えていきました。

▶ 実施した支援内容

面談を通して、店主の「老舗とは異なる形で和菓子の魅力を伝えたい」という思いを強く感じました。そこで、ターゲット顧客や商品が求められるシーンを言葉にし、改めてお客様の立場から商品の「価値」について考えていただきました。



ブランドカラーが印象的な包装材

商品や建設中の店舗の写真をしながら、店舗の内外装、商品のパッケージや並べ方についてアドバイスをしました。パッケージ作りでは、費用や在庫の面で負担が大きくなるように、既成の紙袋に汎用性の高いオリジナルの帯やシールなどを組み合わせて統一感を持たせることを提案しました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

夏のオープン以来、SNSや口コミにより徐々に店の認知度が高まり、地元紙で取り上げられたことも功を奏して、当初の想定を上回る販売実績を上げることができました。美味しい和菓子はもちろん、店のテーマカラーを使った包装も好評です。住宅街の中という目立たない立地ですが、若い女性がわざわざ足を運んでくれる魅力的な和菓子店ができてきました。

冬には、和菓子と合わせたコーヒーの提供や、家ででき立てを楽しめるもなかセットなどの販売を始めました。今後も、新たな和菓子の楽しみ方を提案していく予定です。



「ずく餅」とオリジナルブレンド珈琲

支援を受けて 代表 春日 雅晃 氏

開店前から包材や商品陳列、購買層へのアプローチ等、自身の経験値の低い部分を幅広く相談しました。工事の進捗具合や包材に使えるものなどは、WEB相談にて画像や映像で確認し合いながら情報を共有し、こだわりたい部分を決して潰すことのないアドバイスをいただきました。定期的に相談することで、コンセプトがぶれないようにいられたこともありがたかったです。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 📠 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

簡易洗面台「RESCUBE」の開発・事業化

事業者 有限会社B・F・G

- 代表者／加藤 裕介
- 所在地／岡谷市長地源2-3-14
- 従業員数／1名
- URL／<https://rescube.jp/>

事業内容 各種防災用品等の開発・販売

▶ 企業の現状及び
支援の経緯

同社は、2000年に代表が個人事業として創業し、当初は、アウトドアウェア、グッズ等の衣料品店を展開していました。そして、2005年に現在の有限会社B・F・Gへ法人化した後は、衣料品店5店舗、ラーメン店3店舗を展開する企業へ成長しました。

2015年にこれらの事業を終了した後は、簡易宿泊所「旅の宿 大森倉庫」（東京都大田区）を開業し、羽田空港に近い立地により、インバウンドの拡大なども捉えて着実に成長してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を経験。宿泊所の延長線上では売上回復が見込めなくなりました。そのため、代表の経験、ノウハウを活かした新たな事業として「RESCUBE」を構想し、開発資金が必要となることから、事業再構築補助金への申請を検討していました。

▶ 実施した支援内容

当機構へは、「RESCUBE」の構造等に係る特許出願を支援していたINPIT長野県知財総合支援窓口から紹介があり、支援を開始しました。事業再構築補助金への申請にあたり、当機構は認定経営革新等支援機関として事業計画の策定に関与しました。具体的には、事業再構築指針への合致の確認、「RESCUBE」の特長や捉えるべき事業機会、事業化に当たり克服すべき弱みなどの整理や、収益計画の策定などについて、一緒に行うなど伴走支援をしました。何度か不採択になったものの諦めずにチャレンジされ、無事に採択されました。その後は、補助金交付申請等が着実に進むよう、助言を行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

無事に補助金が交付され、設備も導入されたことで



開発した簡易型洗面台
「RESCUBE」

製品を製造できるようになりました。代表の熱心な営業活動や、長野県発明協会のアドバイザーによる橋渡しなどもあり、既に約100の自治体へ製品を紹介しています。災害時に避難所で使いやすい（備蓄飲料水を使える、収納しやすい、組み立てやすい、軽い等）ことから、複数の自治体から大きな関心が寄せられています。信州ベンチャー企業優先発注事業にも認定され、今後、一層の販売拡大を図っていきたいと考えています。

新事業分野開拓者認定証	
所在地	長野県岡谷市長地源二丁目3番14号
名称	有限会社B・F・G
代表者氏名	代表取締役 加藤 裕介
信州ベンチャー企業優先発注事業認定要綱第5条第2項の規定により、新事業分野開拓者であることを認定する。	
長野県知事 阿部 守	

信州ベンチャー企業優先発注事業認定

▶ 参画機関

- INPIT長野県知財総合支援窓口（(一社)長野県発明協会）

支援を受けて 代表取締役社長 加藤 裕介氏

事業再構築補助金の事業計画を策定するにあたり、客観的に当社を分析いただいたり、助言をいただくなどのご支援をいただき、採択につなげることができました。今後は、RESCUBEの益々の販売拡大を図っていきたいと考えております。引き続きご支援・ご協力をお願いします。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5028 📠 026-227-6086

✉ keieishien@nice-o.or.jp

ピックアップ自社開発による
エレキギターのOEM等の生産・販売拡大

事業者 有限会社ツバサ

●代表者／田中 千秋 ●所在地／茅野市玉川2483-2
●従業員数／4名 ●連絡先／main@tsubasaguitars.com

事業内容 エレキギターの製造販売

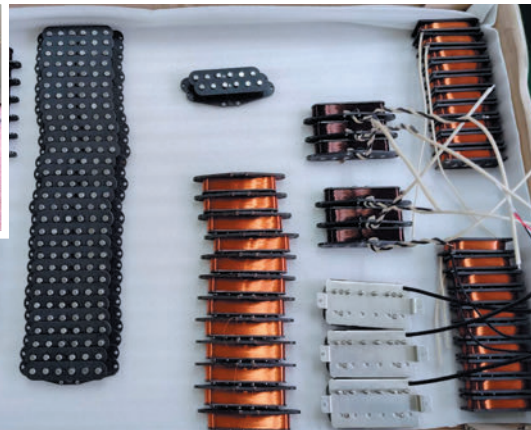
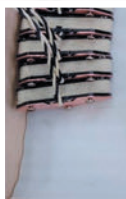
▶ 企業の現状及び
支援の経緯

同社は、田中千秋代表が大手メーカーから独立して2007年に創業しました。同業者からの依頼によるアーティスト向けのギターの製作から開始し、OEM生産を中心に順調に事業を拡大してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で受注が大きく減少。打開策として、アーティスト向け同様のクオリティの楽器を多くのプレイヤーにお届けするべく、自社ブランド「Tsubasa Guitar Workshop」をスタートしました。またその際、音質の要となる「ピックアップ」の自社開発にも取り組みました。

この成果を事業化する上で、ピックアップ生産用の巻線機や、工程内製化のための木工加工機の導入が必要であり、ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金（以下「ものづくり補助金」）への申請を考えていました。

▶ 実施した支援内容

当機構は、「Tsubasa Guitar」の商標出願を支援していたINPIT長野県知財総合支援窓口からの紹介により、支援を開始しました。ものづくり補助金への申請にあたり、認定経営革新等支援機関として事業計画の策定を支援しました。具体的には、「中小企業の特定ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」への合致の確認、同社の強みや生産性向上を図るべき工程の抽出・特定、導入する設備の必要性の



自社製造ピックアップと開発の様子

明確化、補助事業により達成したい技術的目標や納期、売上目標の設定などについて、議論を重ねながら一緒に行いました。

無事に補助金交付候補者として採択された後は、補助金交付申請や実績報告が着実に進むよう、随時、助言を行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

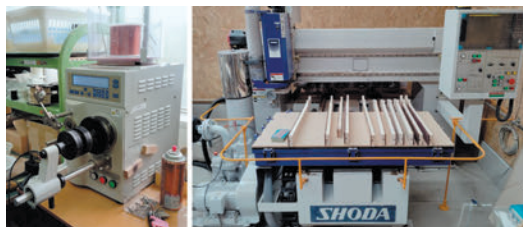
無事に補助金が交付され、必要な設備も導入されたことで、ピックアップ生産が内製化できるとともに、ギター全体の生産性が向上し、納期も短縮することができました。販売パートナーとの連携もますます強固となり、順調に事業を拡大できています。今後は、より一層、エレキギターを演奏する方々が求める音質に応えることができるよう、生産に係るデータを蓄積するとともに、その活用を模索していきたいと、同社では考えています。



製造されたギター

▶ 参画機関

● INPIT長野県知財総合支援窓口（(一社)長野県発明協会）



導入した巻線機や加工機

支援を受けて 代表取締役 田中 千秋 氏

ものづくり補助金の申請に当たっては、事業計画を策定する必要がありますが、初めてのことで大変戸惑いました。何度も議論に協力いただき、助言をいただけたことで、採択につながりとても有難かったです。今後、更なる取組を展開していきたいと考えておりますので、引き続きご支援・ご協力をお願いします。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5028 📠 026-227-6086

✉ keieishien@nice-o.or.jp

成長に限界を感じていた産業から新分野への挑戦へ！

事業者 有限会社横河計器製作所

●代表者／山田 敏幸 ●所在地／岡谷市長地小萩1-6-8
●従業員数／32名 ●連絡先／0266-27-7142 ●URL／<https://yokokawakeiki.co.jp/>

事業内容 バイメタル式温度計製造販売



▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社の製品には、以前はたくさんのライバル企業が存在していたものの、ここ数年は廃業や撤退により、国内市場のシェアが高い状態となっています。主な顧客は同業他社や卸売業者であり、設計開発から製造までを受託するODMが製造の6～7割を占めています。市場が小規模なため、新たな参入もほとんどない産業となりつつあります。現在3代目の代表者は、次世代の成長のために新たな取り組みが必要と考えていました。

業界の中で生き残るために、目前の課題に対応するための、技術力の向上や価格転嫁は行ってきましたが、日々の業務に忙殺されて、次世代の成長に向けた戦略的な取り組みができていませんでした。

▶ 実施した支援内容

業界シェアが高いということもあり、技術力や販売力の強みがありますが、業界分析や競合分析が不足



新工場稼働直後の様子1

していたため、より具体的に分析を実施し、社内分析も工程ごとに分けて詳細に行いました。分析の結果、ユーザーニーズがつかみ切れていない状況が見えてきたため、戦略立案を提案し、それに向けた情報収集を実施して新たな商品開発へのチャレンジを始めました。

【実施した支援と分析】

- ・顧客の先の顧客業界を分析（ユーザーニーズの再検討）
- ・既存商品で新分野（医療やロケット分野）開拓の仮説立案
- ・過去のイノベーションの振り返り
- ・競合分析による新技術（圧力計、流量計）への挑戦の仮説立案
- ・必要な人材の確保やM&Aの検討
- ・営業ターゲット企業の情報収集

▶ 支援の結果及び今後の展開等

現状、シェアが高いため、注文待ちの状況でしたが、分析の結果、同社の主な顧客業種はビルのセントラル空調分野で成長が見込めず、競合他社の主な顧客業種である化学プラントは2035年までに20% UPの成長が見込まれることが分かりました。

その業界に強いメーカーを分析（競合分析）することで、新たな分野への進出（現在の温度計から量が多い製品）によって、顧客への浸透を図れるという展望が開け、その先に伸びしろのある分野も視野に入ってきました。



新工場稼働直後の様子2

支援を受けて 代表取締役社長 山田 敏幸 氏

今までいろいろな支援を受けてきたが、実になったことがありませんでした。今回の支援では、目の付け所が今までと大きく違い、目からうろこで経営陣の心にミートしました。今まで接点のなかった企業とのコンタクトから始めて、新たな分野への挑戦意欲が湧いてきました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 ☎ 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

原理原則に則った在庫管理で キャッシュフローを改善しました

事業者 株式会社田中機器製作所

●代表者／田中 幸一 ●所在地／松本市大字島内5543
●従業員数／70名 ●連絡先／0263-47-2211 ●URL／<http://www.tanakakiki.co.jp/>

事業内容 オーダーメイド洗浄機的设计・製造・販売

企業の現状及び支援の経緯

同社は、コロナ禍による資材供給の不安定化に対応するため、部品や素材を多めに発注した結果、現場に必要な以上の物品が多い状況に直面しました。売上や利益は伸びたものの、キャッシュフローに改善の余地が残り、在庫管理に問題があると判断して相談に至りました。現場視察では、組み立て工場で適切に部品が管理されていた一方、部品加工現場では、出入庫管理が不十分で、数量把握が困難な状況が確認されました。これにより、取り違えリスクや適正在庫の不明確さが課題として浮き彫りになりました。そこで支援方針として、まず各部材の適正在庫を明確化し、出入庫の入力徹底を図りながら、適正な発注体制の構築を最優先とすることが決定されました。

実施した支援内容

システムに登録された部材リストを見直し、期末棚卸データを活用して在庫数を正確に把握しました。完成品の出荷実績とリードタイムを基に各部材の使用量を算出し、安全在庫と発注点を設定することで適正在庫を明確化しました。これにより、過剰在庫の部材を特定し、不要な仕入れを抑制する体制を構築できました。また、定量発注方式を採用し、発注点に達した時に発注する作業のやり方に統一させ、担当者教育を実施しました。さらに、安全在庫の基準を定期的に見直す仕組みを導入し、柔軟で持続可能な在庫管理を実現しました。支援のポイントとし



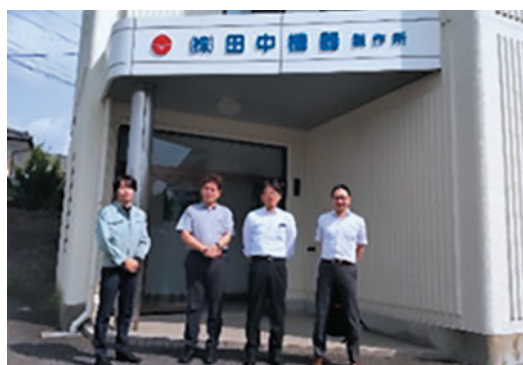
主な取扱製品



て、5Sの原則を活用し、不要なものの排除と適正在庫の理論的算出に注力したことで、現場の感覚に頼らず確実な発注が可能になりました。

支援の結果及び今後の展開等

支援により適正在庫と発注点が明確化され、発注管理が徹底されたことで、過剰発注が抑制され、部材在庫金額は約30%の削減が見込まれます。また、不要在庫の廃棄が進み、在庫置き場の5S活動も順調に進行しています。さらに、受入在庫と加工後の部位置き場が明確に区分されたことで、ISO9001の監査で指摘されていた取り違えによる品質リスクが低下し、業務の効率化と品質管理の向上が実現しました。今後も継続的な改善活動により、さらに高い管理精度と効率化が期待されます。



本社前で

支援を受けて 専務取締役 和合 俊二 氏

現場の5Sや物品の管理方法について指導していただき、大変感謝しています。適正在庫の算出方法を理論的に教えていただいたおかげで、属人化していた発注作業が標準化され、事務作業の効率化が図れると考えています。安全在庫やリードタイムの精度向上など、改善の余地はありますが、自社内で実践するための基礎が整いました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 📠 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

事業者 有限会社滝屋本店

●代表者／依田 章 ●所在地／長野市元善光寺482
●従業員数／20名 ●連絡先／026-235-1255 ●URL／<https://www.takiyahonten.com/>

事業内容 長野県の銘菓名産、地酒を取りそろえた土産屋



▶ 企業の現状及び支援の経緯

善光寺参道で明治時代から営んでいた旅館業の売店部門を独立させ、昭和30年に土産品店として設立された同社は、団体旅行客の減少、おやき等の専門店の新規出店などから、10年前に比して売上が4割減少、更にコロナ禍で8割減少にまで低下し、長らく厳しい経営が続いていました。そのような中、先代急逝のため令和4年に相談者が事業を承継しましたが、小売業の経験がなく試行錯誤していたところ、金融機関の紹介で当拠点に相談をすることになりました。コーディネーターは、団体客が土産品を大量購入していた時代は終焉し、土産慣習自体も衰退しているため、これまでのやり方では対応できないと考え、個人客を取り込むためのリブランディングが急務であると判断しました。そこで、クロスSWOT分析を行って、同社の強みを活かしたリブランディングを行うことを提案しました。

▶ 実施した支援内容

ブランドビジョンを「ばら撒き土産ではなく、自分用のご褒美土産」と定め、インバウンド消費という好機をつかめるように体験型店舗への変革を目指し、MD（商品戦略）の見直し及び店舗改装を行うことにしました。

MDについては、それまで問屋任せだった2,000点以上もの膨大な商品を大幅に絞り込むとともに新商

品の模索を行いました。レイアウト面では、売上分布図を作成したところ、店舗の前半分（入口付近）しか売上に貢献していないことが判明したため、手数も多く店内への誘導効果が殆どなかったホットスナックの店頭販売を見直しました。また、顧客を店舗入口から奥に導く通路を確保して、店舗奥の商品までが売上に繋がるレイアウトを提案しました。同時に、店舗デザイン、衝動買いを誘う動線設計、免税店の許認可の取得アドバイス、JETRO長野を紹介して越境ECの可能性を探るなど、各種販促計画のアドバイス等を行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

提案した店舗レイアウトや免税店など各種販促計画の実施にあたり、相談者と協議しながら国や自治体の補助事業計画を策定しました。その結果、合計6つの補助金が採択され、店舗改装やIT設備導入を行ったところ、入店客数が3倍以上と飛躍的に増加しました。特に店舗の奥にある高価格帯商品の売上が急増し、店舗全体の売上はコロナ前の2倍になり、その効果は現在も続いています。

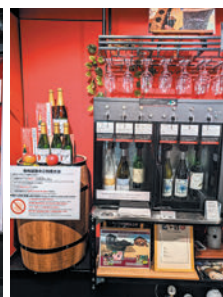
今後については、土産品は旅先から持ち帰るために、重量のある商品や冷蔵・冷凍品の販売が難しいことから、帰宅後の購入に繋げる仕組みづくりが課題と考え、旅先で体験する試飲試食を充実させるための改善と、ECサイトの構築を計画しています。

▶ 参画機関

- (独)日本貿易振興機構(ジェトロ)長野貿易情報センター
- 取引先金融機関



店舗奥に誘導する日本酒の陳列



ワインの試飲サーバー

支援を受けて 代表取締役 依田 章氏

お土産習慣で買物をする顧客相手だった当店には、普通に買物を楽しむお客様に対するノウハウを殆ど持っておらず、問屋頼みの仕入れでは顧客ニーズを満たさなくなっていた時に、コーディネーターから、顧客心理に基づく売場設計、販売促進や陳列方法をご教示いただき、当店で実践する具体的な方法を示していただいたことが成果に繋がりました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 ☎ 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

入店客数3倍、
売上はコロナ前の2倍となったリブランディング効果

収穫期以外でも安定収益化！農園経営の新たな挑戦

事業者 須田農園

●代表者／須田 清 ●所在地／南佐久郡佐久穂町大字畑782 ●従業員数／2名
●連絡先／0267-88-2684 ●URL／<https://www.instagram.com/sudafarm.nagano/>

事業内容 りんご・プルーンの栽培と販売



▶ 企業の現状及び支援の経緯

同農園は、長野県佐久穂町で50年にわたり、りんごとプルーンを栽培しています。高品質な果物の生産には多くの手間と技術を要し、有機肥料を主体とした減農薬栽培で地元や観光客から高い評価を得ています。しかし、収穫期以外の売上が大幅に減少し、経営の安定が課題となっていました。また、傷んだ果実の有効活用や販路拡大に加え、数年前に開設したホームページや通販サイトのアクセス減少も問題視されていました。これらの経営課題を解決し、収益の平準化を目指すため、6次産業化を視野に入れた加工品販売、販促強化、地域資源の活用についてご相談をいただき、伴走支援を開始しました。

▶ 実施した支援内容

1. 補助金活用の支援

佐久穂町の6次産業化支援補助金を活用し、ホームページのリニューアルやサブスクサイトの開設



サブスクサイトで定期販売

についてアドバイスしました。

2. 販路拡大の支援

ギフト販売強化、SNS（Instagram）の運用強化、ライブ販売の実施、新設された八千穂高原道の駅での商品販売展開を支援しました。特に、手書きPOPで商品の魅力を効果的に伝える工夫等をアドバイスしました。

3. スケジュール管理

ガントチャートを活用して補助金申請から事業展開までのスケジュールを可視化し、計画的な進行をアドバイスしました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

補助金獲得を活用したホームページのリニューアルは、令和7年3月にサイトリリース予定です。また、サブスク販売サイトを開設し、令和6年9月より販売開始しました。ギフト用セット販売、Instagram強化やライブ販売の実施で新たな顧客層を獲得し、昨年比で売上は120%増加しました。また、収穫時期以外の安定収益モデルを確立し、八千穂高原道の駅での販売展開により、地域活性化にも貢献しています。今後は、地域経済循環創造事業交付金の活用による加工所新設を目指し、地域雇用創出や観光資源化を進める予定です。



Instagramでライブ販売

支援を受けて 代表 須田 清氏

6次産業化支援補助金を活用することで、ホームページのリニューアルが実現し、サブスク販売サイトの導入やギフト向けセット販売が売上向上に繋がりました。Instagramの活用や道の駅での展開により、お客様との新たな接点を作れたことに感謝しています。伴走支援のおかげで進行管理もスムーズに行えました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 📠 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

バイオマスプラスチックによる資源循環の試み

事業者 上田プラスチック株式会社

●代表者／飯島 洋一 ●所在地／上田市岩下229番地
●従業員数／100名 ●連絡先／0268-35-0091 ●URL／<https://ueda-plastic.co.jp/>

事業内容 工業用プラスチック製品加工

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、環境配慮型ものづくりへの技術開発の一環として、食物由来のバイオプラスチックや木材粉末などのバイオマスを複合した「バイオマスプラスチック」の利活用に関する研究を進めていた関係で、当機構主宰のサーキュラーエコノミーイノベーション研究会へ発足当初から中心メンバーとして参画してきました。2023年度には、ゼロカーボン技術事業化支援補助金を獲得して研究開発を加速しました。バイオマスの原材料には、根羽杉の間伐材、上田市公園の桜の剪定枝や放置竹林の竹、上小地区のクルミの廃棄殻等を用い、自社成形工場の廃棄プラスチック等とコンパウンドしました。試作金型は、あえて低付加価値な「うちわ」のプラスチック骨として、バイオマス複合材料の付加価値を測定するマーケティング調査用の試料としました。

▶ 実施した支援内容

諏訪圏工業メッセ（岡谷市）、Matching HUB Hokuriku（金沢市）等の展示会へ出展している当機構のブース内に、これらの試作品を展示しました。企業担当者が展示ブースに立ち合い、来場者にバイオマスプラスチック製うちわを実際に手に取ってもらい意識調査を行いました。400名を超えるアンケート結果から、積極的に購入したいとする回答が多く、大幅に付加価値の向上が認められました。これらの結果は、「バイオマスプラスチック製品における感性



NICE展示ブースでの意識調査

長野県産のバイオマスを使用した複合プラスチック素材の開発

CO₂削減と地域資源循環をめざし長野県内で発生する余剰材を利用しバイオマス複合素材をつくる取り組みをしています

- ・市町村など地域で発生した余剰材を低コストでバイオマス複合材を制作
- ・バイオマスを利用する事で石化由来材料使用を押さえカーボンニュートラルに貢献
- ・地域の余剰バイオマスの特色・背景を活かす小ロット生産技術で地域資源循環を目指す
- ・手に取ってもらえる様なバイオマスの素材感をいかした表現



バイオマスプラスチック製品の試作

的付加価値」として、2024年9月に日本感性工学会大会の企画セッションにおいて発表しています。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

地域のバイオマス素材を用いたバイオプラスチック製うちわは、地域イベントの主催団体が環境配慮の発信媒体として活用されることが期待されます。第1号案件として、2024年7月の上田わっしょい、8月の信州上田大花火大会で配布するうちわに採用されました。うちわの作成にあたり、同社が主体となりアリオ上田、上田市、上田商工会議所、上田わっしょい実行委員会、信州上田大花火大会実行委員会、上田女子短期大学の産学官が連携した事業となりました。またイベントに先立ち、アリオ上田において記者会見を行い製品のPRも行いました。



記者会見の様子

支援を受けて 開発課長 山崎 辰也 氏

2023年12月に「ものづくり産業からサーキュラーエコノミーを考えるシンポジウム in NAGANO」が開かれるなど、サーキュラーエコノミーへの取り組みの機運は県内でも高まりつつありますが、このような形で産学官が具体的に連携する取り組みは、県下でも初めての例となります。県内のサーキュラーエコノミーの取り組みを、上田地域からの発信で盛り上げていきたいと思っています。

担当部署

グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 ☎ 026-226-8838

✉ green-innov@nice-o.or.jp

サポイン事業での支援 水素社会に向けた耐水素脆性
結晶微細化ステンレス棒材の開発

事業者 株式会社小松精機工作所

●代表者／小松 滋 ●所在地／諏訪市大字四賀942-2
●連絡先／0266-52-6100 ●URL／<https://www.komatsuseiki.co.jp/>

事業内容 各種精密機械部品製造・難削材の切削・研削加工

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、精密機械部品製造技術で地域未来牽引企業として業界をリードしている企業です。環境対策の動きから新たな市場が生まれ、特に水素エネルギーは次世代エネルギーとして注目されており国を挙げて強化策が明示されています。このような中、同社では材料から開発する必要があると考え、2001年から金属の結晶粒径を微細化する技術を開発してきました。この結晶微細化については兵庫県立大学の鳥塚史郎先生と共同研究してきており、この内容について、令和3年度の基盤技術高度化支援事業（以下「サポイン事業」）への申請の結果、採択され3年間支援をしてきました。現在は事業化に向けて引き続き伴走支援をしています。

▶ 実施した支援内容

同社では、温間温度域の加熱と強圧延技術を組み合わせる加工法を開発しており、サポイン事業を通して新型の圧延機を製作しました。また兵庫県立大学では今まで大きな部屋で大きな機器を使用して評価していた水素の脆性評価を非常にコンパクトなサイズで評価できるシステムを開発し、この評価システムを用いて水素の脆性評価をしたところ、同社の開発した圧延機で製造した金属が高耐熱・高耐水素脆性の性質を持つことがわかりました。この材料について学会などを通して報告したところ、パイプ形状のものが欲しいとの引き合いがあり、パイプの製作にも取り組みました。また、兵庫県立大学の評価システムについても市場から高い評価を得られています。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

水素関連の部品の材料としては、SUS316が規格で決められていますが、この材料の組成に手を加え



微細加工後のパイプ

ることなく、加工方法のみで耐水素脆性を上げることができたことは、水素関連の製造企業からも評価をいただいています。また、この結晶微細化に関しては医療関係からも注目をされていてチタン材料についても研究したところ、同じ方法で結晶を微細化できることがわかり、海外からも注目を集めています。更に高付加価値の部品を作るべく共同研究開発を推進し、事業化に向けても支援してまいります。

▶ 参画機関

●兵庫県公立大学法人兵庫県立大学



開発した溝ロール圧延機全体像

支援を受けて 専務取締役 小松 隆史 氏

結晶を微細化することにより組成を変えずに水素脆性を上げることが可能となり、水素関連の部材を扱う企業への展開が進んでいます。また、材料を変えることにより医療分野への展開も開け米国企業からの問い合わせが来ています。兵庫県立大学で開発した水素脆性評価方法と併せて、これからも事業化を目指していきます。

担当部署

グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 📠 026-226-8838

✉ shinsangyo@nice-o.or.jp

「心臓リハビリテーション支援システム」を開発 産学官連携により

事業者 株式会社ズー

●代表者／藤井 修亮 ●所在地／上田市下之郷字浅間原813-12
●従業員数／80名 ●連絡先／0268-37-1531 ●URL／<https://www.zoo.co.jp/>

事業内容 調剤薬局向け業務支援システムの開発、販売、サポート
PCゲーム・ソーシャルゲームの開発、運営、サポート

企業の現状及び支援の経緯

同社は、調剤薬局向けシステムや医薬品データベースを提供する医療事業と、SNS・PCゲームを展開するコンテンツ事業を柱とする企業です。異分野の事業を柱とするユニークな企業で、近年はこれらを融合した新製品開発にも積極的に取り組んでいます。今回の心臓リハビリテーション現場のニーズは、丸の内病院（松本市）の臨床工学技士から、長野県臨床工学技士会を通じて、当機構と信州大学に支援要請がありました。

心臓リハビリは、家庭や社会生活への復帰、再発防止を目的に病院内で自転車漕ぎ運動による体力回復を半年から1年継続されます。しかし、運動が単調なため、多くの患者が途中でやめてしまう問題があり、患者が楽しく継続できる新たな仕組みが必要とされていました。



自転車漕ぎ運動

実施した支援内容

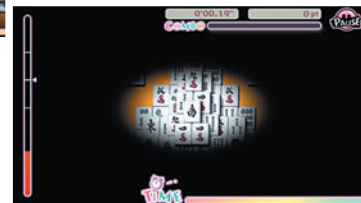
信州医療機器事業化開発センターは、医工連携プロジェクトマネージャーを中心に、信州大学と連携し、アプリ開発から臨床研究まで総合的に伴走支援しました。

- 医工連携マッチング支援：県内事業者から、医療事業とゲーム事業を展開する株式会社ズーを選定し、リハビリ現場のニーズとマッチング
- 共同開発契約支援：臨床工学技士会や市中病院では馴染みのない契約について、確認・修正提案・企業交渉を仲介

- 医療機器開発・研究支援：ゲーム要素を取り入れた心臓リハビリの提案や、臨床研究の手法を検討
- 知財支援：ペダル回転数のセンシング方法やソフトウェア仕様の権利化を提案し、明細書をチェック・修正

支援の結果及び今後の展開等

心臓リハビリテーション支援システムは、自転車漕ぎ運動に「麻雀」や「ソリティア」といったゲームを融合することで、処方された運動強度を守りながら楽しめる工夫がされています。丸の内病院における臨床研究では、退屈感が軽減され、興味が喚起されることでリハビリを継続しやすくなる効果が確認されました。今後は、データの収集や医療機器メーカーとの協力を進めながら、令和8年度の市場投入を目指して開発が進められています。



ペダル回転数が設定値を外れるとゲームが停止する

参画機関

- 一般社団法人長野県臨床工学技士会
- 社会医療法人抱生会 丸の内病院
- 国立大学法人信州大学



ソリティア



麻雀



花札



二角取り

ゲームコンテンツ

支援を受けて 代表取締役社長 藤井 修亮 氏

当社は30年以上ゲーム開発を手掛けてきましたが、社会的課題解決を目的としたゲーム制作は初の試みでした。臨床研究で、患者様のリハビリテーション継続意欲が向上した結果を受け、新たな扉が開かれたと感じています。今後は更なる研究と上市を目指し、取り組みを続けてまいります。

担当部署

次世代産業部
信州医療機器事業化開発センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 ☎ 026-226-8838

✉ med@nice-o.or.jp

チタン合金の加工手法開発により
加工時間短縮と刃具寿命延長を達成

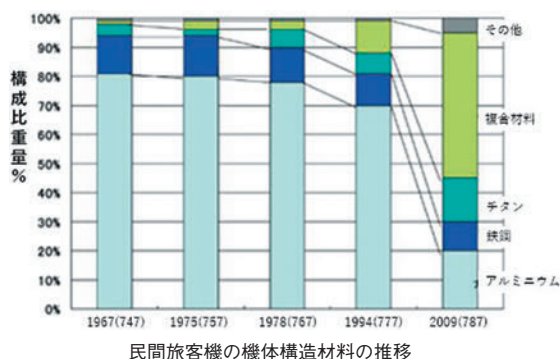
事業者 多摩川パーツマニュファクチャリング株式会社

●代表者／松澤 光良 ●所在地／飯田市松尾明7584-1
●従業員数／127名 ●連絡先／0265-48-6488 ●URL／<https://www.tpm-tamagawa.com/>

事業内容 航空機産業等の機械工作、特殊工程、組立

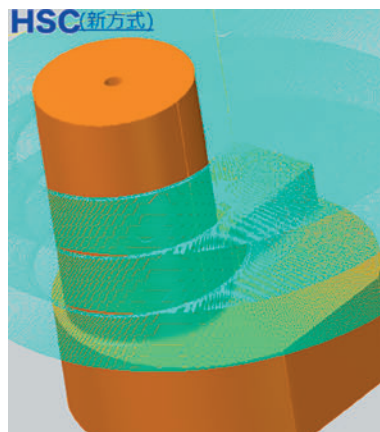
▶ 企業の現状及び支援の経緯

航空機の部品には疲労強度、亀裂伝搬特性（亀裂の進行のしにくさ）、耐食性、軽量性に優れた材料が多く用いられ、その中でもチタン合金はこれらの要件を満たす材料として、機体やエンジン等に広く採用されています。近年、航空機は低燃費化のため、機体の軽量化が進められており、機体部品への炭素繊維強化複合材CFRPの適用化の比率が高まっています。チタン合金は耐食性や熱膨張率においてCFRPとの適合性に優れていることから需要が増大しています。一方、チタン合金は引張強度が高く、熱伝導率が低いため、加工性が悪く、切削工具寿命が短いことが課題です。そのため、切削速度を遅く設定する必要がありますが、加工時間が長くなる傾向があります。当機構では同社に対し「企業内体制整備補助金」を活用した、品質検査に関する体制強化を支援させていただきましたが、今回はチタン合金に対する新加工手法を開発したいとの相談を受け、「研究開発支援補助金」の活用を提案させていただきました。



▶ 実施した支援内容

当機構では、開発費の助成を中心として新たな加工手法の開発支援を行いました。チタン合金の加工における課題である①工具寿命の短さ、②切削時間の長さを改善するため、従来の加工手法であるHPC（High Performance Cutting）から、新たな加工手法であるHSC（High Speed Cutting）を開発して実現しました。



HSCによるカッターパス

新たに導入するHSCは従来と比べて著しく高い切削速度での加工となるため、常に工具負荷が一定になるパスキーションが必要で、これに対応するため最新のソフトウェアを導入し、エンゲージ角を制御することで負荷を均一化しました。これらにより、①工具寿命、②切削時間が改善できることを今回のサンプルの加工で確認することができました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

従来の加工手法であるHPCと今回開発した新加工手法HSCにより、それぞれサンプルを1台ずつ加工し、その結果を比較しました。その結果、加工時間を47.5%短縮できました。また、工具摩耗の減少により工具コストを2/3に削減できました。今後はサンプル数を増やし、加工条件の改善を行うことで、製品の増産に対応していきます。さらに、省人化や、段取り時間の短縮化、加工精度の向上、工具の使用効率の向上を見据えて5軸加工機によるHSCに取り組む予定です。当機構の研究開発支援補助金の活用や、CAD/CAMソフトの効率的な活用に関するアドバイスもあり、短期間での新加工手法を確立できました。

加工方法	Vc	n	送りVf	fz	ap	ae	切りくず排出量Q	所要時間	工具寿命
	m/min-1	min-1	mm/min-1	mm	mm	mm	cm ³ /min-1	min	
従来手法 HPC	39.25	250	80	0.06	1.5	50	6.0	261.84	×
新手法 HSC	80.5	1600	1200	0.19	25	1.5	45.0	137.36	○

HSCの優位性

支援を受けて 技術部 鈴木 賢一氏

これまで難削材チタンの切削加工では、加工時間が長く、かつ加工刃具も欠けやすいなど大変苦労してきました。今回支援を受け、新技術での試加工と検証を行うことができました。結果、加工時間で約47.5%の短縮、刃具に欠けもなく良好な結果でした。ご支援をととてもありがたく感じております。今後も、新しいチャレンジに取り組んでいきたいと思ひます。

担当部署

次世代産業部
航空機産業支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 📠 026-226-8838

✉ aerospace@nice-o.or.jp

健康機能を有する商品開発の支援
「すんき」漬液を有効活用した

事業者 おんたけ有機合同会社

●代表者／松井 淳一 ●所在地／木曽郡木曽町開田高原末川4119-2
●従業員数／9名 ●連絡先／0264-42-1360 ●URL／https://kaidakougen.jp/

事業内容 農作物加工、地域農作物及び加工・発酵食品の販売、飲食業

企業の現状及び支援の経緯

同社は木曽地域特産の乳酸発酵無塩漬物のすんきなど、発酵食品・農産加工品の製造を行う「おんたけ有機KAP」、地域の発酵・加工食品や農産物を販売する「彩菜館」等を運営している会社で、2009年に地域住民の出資などで設立されました。観光とも連携し、地域での食に関する循環経済を構築することで、持続可能な地域経済、地域社会の発展に貢献することを経営理念としています。すんきは、古くから伝わる木曽地域の保存食で、栄養的にも優れた食品です。また、「県選択無形民俗文化財」や、地理的表示法に基づき地理的表示（GI）として登録されるなど、歴史的、文化的な価値があり、さらに、地域産業にとっても重要な食品です。しかしながら、すんきの販売量は横ばい状態であり、新たな商品開発が求められています。そのため、当機構では、すんきの製造副産物である「すんき漬液」を有効活用（アップサイクル）し、すんきに含まれるGABAや乳酸菌による健康増進が期待される商品開発を支援しました。



ゼリー、サイダー、及び、研究会の様子

実施した支援内容

すんきには、植物性乳酸菌自体や乳酸菌により産生される機能性成分GABA等が含まれ、健康機能性が注目されています。その健康機能性は、すんき漬液にも同様にありますが、商品開発する中で、「漬物としての独特の匂いのマスキング」、「製品による乳酸菌・GABAの摂取量」、「漬物からのイメージチェンジ」が課題となっています。これらの課題を解決するために、すんき漬液を活用したゼリーとサイダーの商品開発に関して、機構コーディネート活動支援事業により、開発を支援するとともに、高崎健康福祉大学、長野県工業技術総合センター食品技術部門、当機構が連携し、技術支援を行いました。また、当機構及び長野県が主催している「信州発酵フードテック研究会」において、試作品の試食評価会を開催しました。研究会の会員から改良点や方向性に関する意見を収集し、より良い商品開発につなげる支援を行いました。

支援の結果及び今後の展開等

すんき漬液を活用した商品開発において、漬物臭のマスキング、開発品の乳酸菌数やGABA量の把握、イメージチェンジなどの課題を解決した商品開発を行うことができました。試食評価会においては、新たな課題等も明らかになり、これからの商品開発に活かしていくことになりました。今後は、引き続き、関連する支援機関と連携して支援を行い、機能性表示食品として国への申請等をするることにより、すんき及びすんき関連商品の需要拡大を図る支援を継続していきます。

参画機関

- 高崎健康福祉大学
- 長野県工業技術総合センター食品技術部門



支援を受けて 代表社員 松井 淳一 氏

商品開発を進めるうえで支援は大変有効でした。この支援事業を進めてきたおかげでさらなる新商品開発へのモチベーションが高められ、すでに2品目の開発が進められています。産業振興機構の事業にマッチするのであれば、継続あるいは再度のご支援をお願いしたいと思います。地域の商品開発事業所に対し、商品開発のアドバイスやアイデアを提供していただけるような支援があれば幸いです。

担当部署

次世代産業部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 ☎ 026-226-8838

✉ shinsangyo@nice-o.or.jp

信州からグローバルへ
無機結晶材料による地下水浄化システムの開発

事業者 ヴェルヌクリスタル株式会社

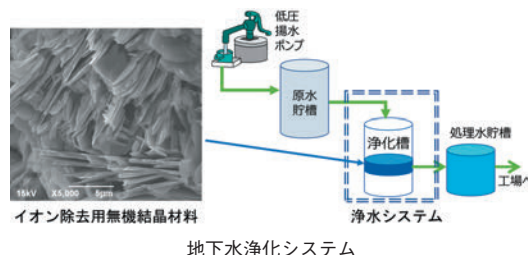
- 代表者／田中 厚志 ●所在地／長野市若里4-17-1 信州大学工学部内 長野市ものづくり支援センター405号室
- 従業員数／12名 ●連絡先／026-217-6585 ●URL／<https://www.vernecrystal.com/top>

事業内容

- ・各種結晶等の機能性材料の開発、製造ならびに販売
- ・材料を用いた機器および部品の設計、製造ならびに販売
- ・関連する情報、ソフトウェアおよびデータサービスの提供
- ・技術およびノウハウの供与ならびにコンサルティング

企業の現状及び
支援の経緯

同社は、信州大学工学部手嶋・林・山田研究室が有する、無機単結晶育成技術「フラックス法」をコア技術に2022年に事業を開始しました。フラックス法は、安価で量産性に優れた結晶育成技術で、材料が持つ機能を最大限に引き出すことができます。この技術を通じて水に含まれる有害な重金属イオンや、フッ素・ヒ素などの陰イオンを選択的に吸着除去できる浄水材料や、水処理に特化した高性能な結晶材料を創製し、浄水器や水処理システムなどの企業との連携によって、効率的で持続可能な分散型水処理システムを実現できます。同社は課題となる営業展開を行うために「イノベーション創出事業」の支援により、地元の水処理関連企業と連携した地下水浄化システムの開発を進めています。



能性が浮上しました。令和5年秋には内閣府が推進する戦略的イノベーション創造プログラムの「マテリアルユニコーン予備軍の創出」に採択され、国のサポートも受けつつ事業活動中です。現在、家庭用浄水器をターゲットとした重金属イオン除去用の結晶材料の製造販売と事業所用、村落単位の小規模分散型水処理システムの検討・開発中ですが、長距離の送水管を有する水インフラは災害時の復旧や老朽配管の更新に難点があり、今後、自律分散の小規模水処理システムや循環的な水利用ニーズが高まると考えられます。同社の技術は大規模な電力施設は不要で、簡便かつ保守の負担も軽いため、この価値をグローバルに展開していく予定です。

実施した支援内容

1. イノベーション創出事業 イノベーション創出
支援補助金（令和4～6年度）

市場分析や自社のSWOT分析など事業計画立案のため様々な観点からアドバイスしました。この補助金は、県内外への事業PRや連携先企業との共創を進める上でも大変効果的でした。

2. IPランドスケープ支援事業
（INPIT長野県知財総合支援窓口）

知財戦略においては、国内外で同様な特許技術の出願前調査、さらにその技術動向など今後の連携や展開を見据えた支援を行いました。

支援の結果及び今後の展開等

従来の除マンガンシステムを今回開発したカートリッジシステムに置き換えることでコンパクトになり、さらに薬液や電力消費量を大きく低減できる可



地下水浄化システム実証試験（試作カートリッジによる特性評価）

参画機関

- 国立大学法人信州大学
- INPIT長野県知財総合支援窓口（（一社）長野県発明協会）

支援を受けて 代表取締役 田中 厚志 氏

スタートアップ企業にとっては、事業の準備段階で地域企業や行政との連携、ネットワーク作りはとても重要ですが、本事業に採択され、その構築が加速できたことは大変有益でした。今後のビジネスのコアとなる水処理のカートリッジや処理ユニットといった機能を持った製品につながる開発の成果を得られ、事業の成長が期待されます。今後はターゲット市場での多様な水処理ニーズに応える技術開発を進め、信州発の革新的な水処理ソリューションをグローバルに展開していきます。

担当部署

企画連携部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

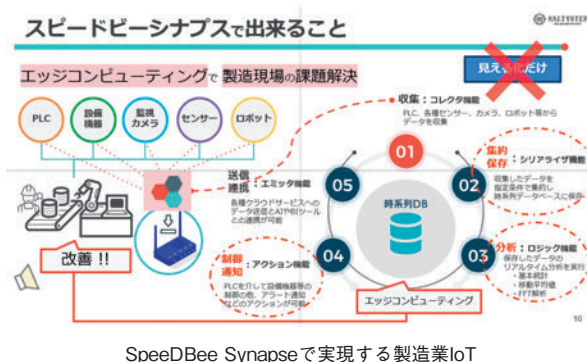
☎ 026-227-5803 ☎ 026-226-8838

✉ renkei@nice-o.or.jp

事業者 株式会社ソルティスター

●代表者／岩井 昇一 ●所在地／塩尻市大門八番町1番2号 塩尻インキュベーションプラザ109号室
●従業員数／20名 ●連絡先／0263-51-9296 ●URL／<https://www.saltyster.com/company/>

事業内容 組込みDB & IoT関連製品の研究開発と販売



企業の現状及び支援の経緯

コロナ禍で本業とする組込みIoT向けソフトウェア（以下「SW」という）の営業展開の見直しと新ビジネスモデルの事業検討が必要となり、令和3年度コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業（コンソ補助事業）により、クラウド型のSW開発計画採択としました。Webセミナーで試用版SWを紹介したところ、大手自動車企業などがダウンロードして工場のライン制御用として導入が始まりました。信州ITバレーのサイトで事業内容を紹介すると、県内めっき業者にて水栓浄槽の自動水入れ替え用に当SWが採用されました。節水効果とSDGsの取り組みとしても紹介され、また、令和5年度コンソ補助事業では、南信の産業機械メーカーとの「生産設備の予知保全システムの研究・開発～電磁ブレーキ、ドリルなどのスマート部品化～」共同研究の中核企業として、長野高専や県外大手企業を含めて事業化へ向けた開発が進められました。

実施した支援内容

コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業の支援【令和3～6年度関連申請案件】
市場分析～検討～申請～採択～開発～報告～事業紹介～マッチング

- ・産学官連携事例として、信州ITバレーのサイトに事業報告内容の紹介
- ・長野県工業技術総合センターにて、メッキ浄化水の洗浄確認として金属検知の分析を可能とする技

術支援の実施

- ・信州大学工学部、長野高専などの学術機関や県内の中小企業、県外大手企業とのマッチング、連携支援



ソルティスターのDOB（DataOrientedBusiness）

支援の結果及び今後の展開等

このような事業成果に着目した大手企業から提携の提案が増え、令和5年秋には(株)オムロンから48%の出資が決定しました。岩井社長が目標とする目の届く社員数30名以内で、高付加価値型のライセンスソフトウェア拡販を目指す中小企業に向けた展開が始まりました。今後、現場データの収集、統合、分析による「スマート工場」に向けて、連携の強化から世界で勝負できるデータベース及び工場でのIoT製品の開発を目指します。一方、中小企業向けには、令和6年度コンソ補助事業で採択された導入機器の遠隔保守を低コストで実現可能な「中小企業でも導入可能な遠隔監視サービス」が、県内企業、関連業界への展開により人手不足、コスト削減による効果の検証を進めていきます。

参画機関

- 長野県工業技術総合センター
- 国立大学法人信州大学
- 国立高専機構 長野高専

支援を受けて 代表取締役 岩井 昇一 氏

IoTは大企業を中心に本格的な導入が始まっている中、中小零細企業では、まだまだ導入できていないのが現状です。弊社は補助事業を通じて、手軽に導入できるIoT環境の実現と提供を目指すことで、各社の企業競争力を高めることをサポートできる新技術の追求と製品開発を目指していきます。事業化にあたり産学官の連携による多大な支援を受け、大変感謝しております。

担当部署

ITバレー推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1635 📠 026-226-8838

✉ it-valley@nice-o.or.jp

「Dual Detector “IBUTSU”」 スマート検出システムに向けて

事業者 ハリコム株式会社

●代表者／田中 菜穂子 ●所在地／上田市下之条1761番地1
●従業員数／15名 ●連絡先／0268-22-2927 ●URL／<https://www.haricom.co.jp/>

事業内容 金属検出機の製造販売業



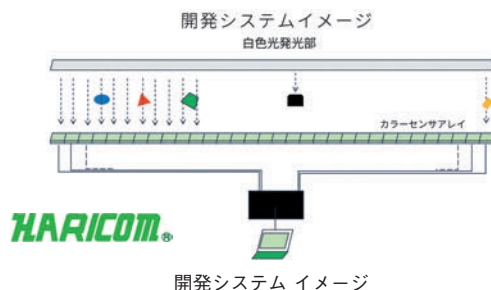
異物検査現場 イメージ

▶ 企業の現状及び支援の経緯

昭和43年に創業した金属検出機製造の老舗メーカーです。製品に混入する金属異物を原料の粉末やフレーク段階から検査が可能で、製造ラインに落ちた金属片が原因の火災防止にも活用されています。ハリコムは「張込み」から名づけられ、HARICOM製品は、これからの日本の製造工場を「見守るITテクノロジー機器」として、データ取得・遠隔監視・機器の遠隔点検など、従来の金属検出機とは一線を画する最新機能を順次導入し差別化を図り、国内・海外とも多くの企業に採用されています。令和5年にはITを積極導入してバージョンアップ機を開発しました。さらに新しいビジネスモデルで事業を行うための支援として、令和6年度コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業補助金の募集開始を機に、産学官連携による具体的な支援を開始しました。

▶ 実施した支援内容

デジタル化の進展に伴ってIT・AI技術の積極的な取り組みを進めており、令和3年には長野県の「AI-IoT等先端ツール活用DX推進事業」に採択されています。当時の開発により機器のデータ取得における見える化を推進し、遠隔地の機器をオンラインで保守・点検を可能にするなど、お客様の満足度アップや社内生産性向上に貢献しています。産学官の一貫支援として、代表者の希望である新技術分野、金属以外

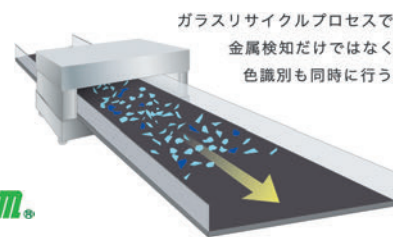


開発システム イメージ

の異物検知を可能にするための「色画像認識プロジェクト」を発足し、検知部分においては、無線技術や回路設計にも理解の深い長野県工科短期大学の中村正幸非常勤講師に参画いただき、具体的な支援サポートをお願いしました。また、上田センターのAI活用研究会で共に活動していた長野高専の力丸彩奈准教授には、色画像部分のAIプログラム開発にご参画いただくこととなりました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

ITの高度化により、今後5年ほどで工場の設備環境は大きく変革していくと予想されます。そうした中、上田地域や関連業界との産学官金連携コンソーシアムが進めるAIプロジェクトとして、「スマート検出システム」の開発を目指します。このシステムは、お客様にさらに使いやすく、格段に生産性が上がる機器を提供し、生産現場の技術革新を支えるものです。今後も、支援機関と連携して支援してまいります。



色識別センサー部分 イメージ

▶ 参画機関

●長野県工科短期大学校 ●国立高専機構 長野高専

支援を受けて 代表取締役社長 田中 菜穂子 氏

弊社は57年にわたり無線技術を活用した検査に取り組んでまいりました。今後の発展にはAIの活用が不可欠であり、従来の無線技術に加えて、これまで困難であった色の概念を導入し、膨大な情報をAIで解析することで、革新的な検査結果を導き出すことを目指します。このプロジェクトの採択は、検査機の高度化と、お客様の製品製造への貢献、そして弊社の市場拡大につながると考えております。今後も真摯に事業を推進してまいります。

担当部署

上田センター

〒389-8555 上田市材木町1-2-6

☎ 0268-23-6788 ☎ 0268-23-6673

✉ nice-ueda@nice-o.or.jp

ベトナム国内で広がるであろう
モノづくりの自動化ニーズを捉える

事業者 野村ユニソン株式会社

●代表者／野村 高城 ●所在地／茅野市ちの650番地
●従業員数／390名 ●連絡先／0266-72-6151 ●URL／<https://www.nomura-g.co.jp/>

事業内容 FA関連装置設計・製造、産業用／生活関連ロボット開発・製造、各種金型設計・製作、
精密熱間中空鍛造、各種ダイカスト、流体制御、駆動装置、各種板金・溶接加工、
環境関連機器、医療用機器、自社開発製品設計・製造、輸入洋酒販売



自動化商品の紹介（協働ロボット・画像検査）

企業の現状及び支援の経緯

同社は令和6年にベトナムの現地法人を設立しました。当面は本社向けの機械設計や部品調達から事業を開始し、3年を目途に自動化設備製作の事業化に着手、自社工場の整備を含めた事業展開の可能性を探っています。そのため、ホーチミン市を中心に自動化装置の新規顧客開拓、需要調査及び現地で情報収集を行いたいと考えていました。

【ベトナム展示会へ出展】

県内中小企業の海外販路開拓を支援するため、当機構が長野県パビリオンを設けたベトナムで開催される展示会の案内を行いました。その結果、支援企業6社の内の1社として出展されました。

また、中小企業販路開拓助成金についても活用していただきました。



野村ユニソンブース

実施した支援内容

【展示会支援】

ベトナム・ホーチミンで開催された、METALEX Vietnam 2024 長野県パビリオンへ出展していただきました。

会 期：令和6年10月2日(水)～10月4日(金)
(3日間)

支援内容：共同の商談コーナーを含む長野県パビリオンの設営と運営

【助成金による中小企業販路開拓支援】

ベトナム語・英語・日本語パンフレットの作成及び輸送費、スタッフの渡航費の一部を助成しました。

支援の結果及び今後の展開等

・ベトナム現地法人社員にて、動画を交えながら工場自動化の紹介を実施

ベトナム語でのアテンド、パンフレットなどの対応から、ベトナムでの自動化需要の情報交換、協力会社（部品加工、輸出運送、組立工場、商社など）の新規開拓につながる成果を得ることができました。また、日本対応案件も含め、具体的な案件を4件いただくことができました。展示会出展により、ベトナムでの自動化需要対応へつながる結果を得られたことで、今後の展開が期待できます。



ブースでの説明風景

支援を受けて 副事業部長 上原 伸二 氏

本支援の展示会出展は、昨年ハノイ開催展示会に続き2回目となりますが、前回はベトナム法人設立前であり、情報収集がメインでした。今回は、法人設立後でしたので、具体的な案件を獲得することができました。また、多くの出展企業とも積極的に交流を行い、自動化需要情報、パートナー連携などの収穫も得ることができました。マーケティング支援部の皆様には、多大なるご協力をいただきありがとうございました。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

新製品の製造請負先を開拓して販売開始しました

事業者 川北商店株式会社

●代表者／川北 靖 ●所在地／上田市福田47-3
●従業員数／1名 ●連絡先／0268-75-8661 ●URL／https://handmadein.net

事業内容 手芸用品の販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

2016年上田市で現代表者である川北 靖氏が川北商店株式会社として手芸用品販売店「Handmade in...」を創業し、実店舗、インターネット、イベント等で手芸用品販売を行う。商品は、布・糸・針等の手芸用品や手芸を行う上で必要となる材料・用具を幅広く取り揃え、マシン販売・修理・調整なども行っています。

積極的な事業展開時に新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、顧客がシニア中心であったため外出自粛で来客者が大きく減少し売上高も大幅に減少しました。状況を打開するため、販路拡大や特徴ある商品作りが必要と判断し、今まで培った強みを活かした自社商品を開発・販売する事業を立上げるべく事業再構築を図ることとなりました。

自社商品の開発に関しては、上田商工会議所、長野県工業技術総合センター及びINPIT長野県知財総合支援窓口の支援を受けて事業再構築補助金を利用し試作品の開発を行いました。製造価格が高いという課題があり、当機構に製造コストを低減できる製造委託先紹介の協力依頼がありました。

▶ 実施した支援内容

1. 長野県工業技術総合センター・INPIT長野県知財総合支援窓口・上田商工会議所における支援

- ・事業再構築補助金の申請
- ・開発品の試作（図面化、3Dプリンターでの試作支援）
- ・特許出願支援
- ・上田地域での企業紹介

2. 当機構における支援

- ・製造委託先に関する支援

「がま口クリップ」の製造コストを低減するため、製造委託先（金型、組立治具含む）としてプラスチック成形事業の株式会社ナカザワ（上田市塩川630-21）を紹介しました。同社はプラスチック成形、組立治具、組立生産までを一貫して製造ができる企業です。



▶ 支援の結果及び今後の展開等

目標コストを実現するため、成形先の株式会社ナカザワの会長・社長をはじめエンジニア各位の協力で金型製作、部品の試作から組立治具の製造、量産迄の製造を1社でご対応いただくことができました。試作品のクリップを開閉動作する際に樹脂同士が擦れ、異音が発生したが川北社長の強い思いから異音を無くす対応を望まれ、最終的に同一樹脂から別樹脂同士に変更し異音解消を実現しました。包装材関連及び組立依頼先は川北社長が決定し、目標コスト達成を実現することができました。

2024年4月からアマゾン、ヤフー等でネット販売を開始し、11月の上田地域産業展では当機構の出展ブースを利用して「がま口クリップ」の実物展示・ポスター掲示にて販売支援を行いました。

今後も販売支援の展開を図っていきたいと考えています。



▶ 参画機関

- 上田商工会議所 ●長野県工業技術総合センター
- INPIT長野県知財総合支援窓口（（一社）長野県発明協会）

支援を受けて 代表取締役社長 川北 靖 氏

仕入れて販売するだけの小売業では他社との差別化が難しく、事業再構築補助金を使って新事業として今まで世の中になかった新商品を開発することにしました。金型の製造、製品版の製造先に当てがなく困っていたところ（株）ナカザワ様を紹介していただきました。希望価格で請け負ってくれるところを探していただいたことで、価格交渉にはそれほど困らず、試作、調整なども親身になって対応していただける企業で助かりました。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

初のドイツ展示会出展で欧州次世代自動車市場への挑戦！

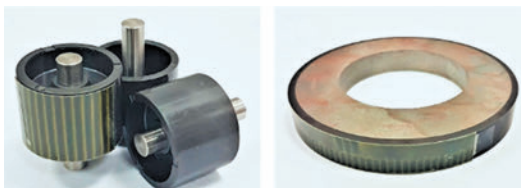
事業者 株式会社ハヤシテクノ

●代表者／林 史章 ●所在地／上伊那郡箕輪町中箕輪10800-119
●従業員数／46名 ●連絡先／0265-79-8701 ●URL／<https://hayashi-techno.jp>

事業内容 プラスチックマグネット材や高機能樹脂などの特殊素材射出成形品の製造

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、プラスチックマグネット製品製造の専門集団で、射出成形でボンド磁石製品を製造しており、ネオジウムフェライト／SmFeN等の多様な磁粉種、磁場解析による磁力波形の提案、自動化による安定した高品質製品を提供しています。現在、中国に製造拠点がありますが、今後、プラスチックマグネット製品拡販のために日本、中国に続く第3の製造拠点を検討していました。欧州での製品ニーズも考慮して今年は、中国以外の海外展示会を視察し、来年からの出展を予定していました。そのような中、機構の海外販路開拓支援事業で、今年度長野県ブースを設置するドイツ展示会を紹介したところ、欧州でのマグネット製品のニーズ調査等海外拠点検討を目的に、本年度からの強い出展希望があり、本事業の対象企業として支援を開始しました。



プラスチックマグネット

▶ 実施した支援内容

欧州次世代自動車市場への販路開拓のために、フォルクスワーゲンの社内展示会であるドイツ展示会



ドイツ展示会「International Suppliers Fair (IZB) 2024」出展

「International Suppliers Fair (IZB) 2024」に出展し、出展前から展示会まで一連の支援を行いました。まず、展示会前には、欧米の外資自動車メーカー等とのネットワークを強みにしている商社を講師に迎え、欧州EV市場へのアプローチの仕方、コンタクト方法等を学ぶグローバルマーケティングセミナーを開催しました。また、欧州でのプラスチックマグネットの顧客情報を入手するために中小機構の海外展開ハンズオン支援との連携支援も行いました。展示会会期中には、現地のニーダーザクセン州経済省自動車庁との情報交換やフォルクスワーゲングループ、大手ティア1等のブースに積極的に訪問するなどしてドイツ企業との接点づくりに努めました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

展示会の会期中に多くの企業（特にエンジニア）との接点ができ、自社の強みを理解できたことで出展して良かった、またドイツの環境がよく（競合企業も少ない）、ドイツでのビジネスには好感触を得たので、ドイツでの業務拡大（事務所開設等）を図ってきたいとのコメントをいただきました。今後も継続して、ドイツのビジネスカルチャー、ドイツ企業とのコミュニケーション方法等を学ぶ異文化研修の実施や海外展示会や商談会等を通じて欧州次世代自動車市場への販路開拓を支援していきます。

▶ 参画機関

●独立行政法人中小企業基盤整備機構



展示会風景

支援を受けて 営業部 取締役部長 松田 徹氏

この度、EU圏の展示会に出展いたしました。予想以上に複数の商社様やTier2メーカー様からお声掛けをいただき、商社様とは継続的にオンラインミーティングを実施しております。アピールの機会や技術者の来場が多いなど、特徴のある良い展示会でした。振興機構様の多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

自動車部品メーカーへ技術提案商談会で
自社技術を直接アピール

事業者 信州吉野電機株式会社

●代表者／吉野 智胤 ●所在地／塩尻市広丘高出1971
●従業員数／84名 ●連絡先／0263-54-1003 ●URL／<https://www.syd-tech.jp/>

事業内容 プレス金型、エンジニアリングプラスチック金型の設計・製作、精密プレス部品の生産、同エンジニアリングプラスチック部品の生産、組立

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、エンジニアリングプラスチックと精密プレスの開発・生産、自社開発した生産管理システムやFA機器の内製化など、



本社工場

ど、独創的なアイデアで挑戦し続けてきました。「情熱」・「独創」・「実行」の企業理念に掲げるこの姿勢を大切に、「技術開発提案型企業」としてモノづくりを通し、お客様の驚きと感動を追求している企業です。主要生産品は、プレス金型・樹脂成形金型、金属プレス部品、樹脂成形部品、金属インサート成形部品等であり、自動車産業向けの品質マネジメントシステムであるISO16949を認証取得し自動車部品メーカーへの売上を伸ばしています。今回は、愛知県にあるトヨタ系自動車部品メーカーであるA社が、今後のEV化に向けた新規部品案件のパートナーとなる企業を長野県で探索できる「技術提案商談会」に参加しました。同社はこの機会を活用し新たな新規顧客開拓を目指しました。

▶ 実施した支援内容

今回のA社向け技術提案商談会での商談形式は、工



商談会にて同社部品を説明する様子

場見学＋対面個別商談形式であり、A社の担当者5名が長野県へ来県され、当機構が同社へのアテンドを行いました。事前準備として同社には参加手引書を送付し、準備すべき事項、当日の商談の流れなどを案内しました。

A社に対しては、当機構から同社の会社案内を事前に送付し訪問前に事業内容を確認していただいたため、商談会当日の工場見学および商談の中でスムーズな質疑応答が実施できました。また、工場見学および対面個別商談を効率よく行えるように進行の取りまとめに努めました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

商談会では、A社が求める樹脂インサート成形加工に関する参考図面に対して加工対応が可能であることが確認できました。

同社は商談会から3週間後にA社を訪問し、改めて会社紹介および技術打合せをした結果、秘密保持契約書の取り交わしを行い、見積図面およびサンプルを受領して4種類の見積依頼をいただくことができました。

その後、再度訪問して打合せを行い、見積回答の内容説明を行っています。

これまでの打合せにより同社の得意分野も把握していただくことができ、今後もその他発注案件についても提示をいただける見込みが立っています。取引開始に向けて、今後もA社との商談を継続していく予定です。



加工部品サンプル

支援を受けて 技術部 次長 仁平 豪氏

支援による商談は、顧客と同機構の信頼関係が基にあることから円滑です。弊社の新規顧客開拓を効率的に進めることに寄与してくれるとともに、広範にPRの機会を与えていただけると認識しています。また、商談会のセッティングや議事進行のフォローにより、初見対応の緊張感も和らぐこともポイントです。紹介いただいた事案が受注につながるよう努めますので、今後ともよろしくお引き立てをお願いします。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

新規設備導入で機械加工製品提供にチャレンジ

事業者 KAISHIN INDUSTRY THAILAND（本社 カイシン工業㈱）

- 代表者／堀 豊
- 所在地／No.155 Moo 3 T.Wangchula, Wang Noi, Ayutthaya（本社 長野市下駒沢800-10）
- 従業員数／135名、本社222名 ●連絡先／026-296-155 ●URL／<https://kaisin-i.com/>

事業内容 精密板金加工・組立

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、2007年にタイ現地法人としてアユタヤに板金加工工場を設立して、溶接を中心とした板金加工製品を提供しています。2018年には受注拡大に伴い、アユタヤ工場の拡張、ナコーンラチャシーマ工場の新設を行いました。そして、2024年には、機械加工設備を導入する目的でアユタヤ工場の更なる拡張を行っています。これにより、板金加工に加え機械加工設備を導入し板金加工、機械加工の両分野にて幅広い製品提供が可能となり、タイおよびASEANにおける新たな事業分野にチャレンジしています。その中で、当機構が主催し2022年にタイで開催された海外展示会「METALEX 2022」に出展して大手メーカーの現地法人及び日本本社と取引開始に至った経験があります。この経験を踏まえ今年度も海外展示会事業の「METALEX 2024」に出展参加し、板金加工と新たに導入した機械加工の分野での新規顧客開拓を目指しています。



KAISHIN INDUSTRY THAILAND

▶ 実施した支援内容

新規顧客開拓、新製品販売、ASEAN地域の市場調査を目的として、海外展示会事業を活用いただきました。当事業は県内中小企業の販路開拓を支援するため、工業製品・技術を広くアピールできる海外の展示会「長野県パビリオン」を設置し、グローバル市場への進出・ビジネス拡大をサポートしています。展示会名：METALEX 2024
会 期：令和6年11月20日（水）～ 11月23日（土）までの4日間 10：00～18：00

会 場：タイ・バンコク市 バンコク国際貿易展示場
出展対象品目：工作機械、金属加工関連（金型、工具、精密測定機器、他）

9月末に出展者説明会を面談形式で開催し、事前準備、注意点等を共有し効果的な展示会になるようアドバイスしました。展示会では、長野県パビリオン内の4ブースのうち、メイン通路に面した角小間ブース（6㎡）を利用いただきました。また、展示会前日には県内大手企業の現地法人を訪問し、工場見学を行い関係づくり等の支援を行いました。



機械加工製品サンプル

▶ 支援の結果及び今後の展開等

【展示会期間中の商談状況】

商談件数 8 件、試作依頼 3 件、図面検討依頼 5 件、名刺交換数 357 件

【展示会後の商談状況】

これまでとは異なる新規顧客からの商談が多く、特に機械加工設備を使用する治工具関係の引合いが多くありました。展示会のフォローアップとして商談いただいた企業に対し、即座に対応し、大半の企業より前向きな反応をいただきました。単独では難しい海外展示会出展の貴重な商談機会を使い、タイで関係づくりをスタートし、これをきっかけとして日本本社にもコンタクトを取り、タイおよび日本の両拠点で新規顧客からの受注に結び付けて行く予定です。



METALEX 2024 長野県パビリオン出展の様子

支援を受けて 常務取締役 堀 洋平 氏

今回、産業振興機構様からのご支援をいただき大変感謝しております。新たな挑戦として、機械加工設備を導入したことで仕事の幅が広がり、前回を上回る大変多くの方にブースに立ち寄っていただくことができました。展示会を通じて、新しい事業分野の市場での反応を確認する大変有意義な機会となりました。今後とも、このような機会がございましたら是非参加をさせていただきたいと考えています。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

商工会議所と連携し新規部材調達先の斡旋紹介

事業者 トヨセツ株式会社 駒ヶ根工場

●代表者／川原田 淳 ●所在地／駒ヶ根市赤穂14701番1
●従業員数／173名 ●連絡先／0265-82-8620 ●URL／http://www.toyoset.co.jp/

事業内容 オフィス家具・用品の製造・販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は昭和39年に創業し、主にオフィス家具の製造と販売を行っています。

商品は、トヨスチール（豊田通商グループ）のオフィス家具ブランドとして、多くの企業に信頼され、北は北海道から南は福岡県まで支店や営業所があり、全国で展開しています。

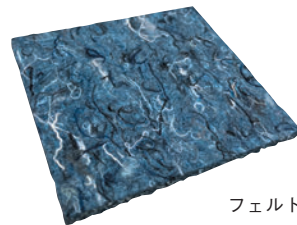
延べ床面積8,800坪の規模を誇る駒ヶ根工場では、スチール製のデスクや収納家具を生産しており、デザインから部品調達、加工、組立までを一貫して自社で生産を行い、高品質な製品を生み出しています。また、オルガテック東京2025への出展に際し、新企画の試作品製作に当たり、従来取り扱っていない新規部材調達先について地元の駒ヶ根商工会議所に相談されていました。



駒ヶ根工場

▶ 実施した支援内容

駒ヶ根商工会議所にて近隣の調達先を探していましたが、該当企業が見つからず当機構へ新規部材調達先の開拓支援の相談を受け、支援を行いました。企業訪問を行い、発注品目（フェルト素材）の詳細について確認したところ、従来の構成部品は鉄系材料が中心で、それ以外の部材調達は未経験であったため、調達先の確保に困っておられました。試作製作期限も迫っていたため、早急に発注条件等を確認し、県内受発注取引推進員に発注案件（2件）として情報展開を行い、対応できる県内企業への斡旋紹



フェルト素材

介を進めました。

駒ヶ根商工会議所から相談を受け、即時に対応したことから、適切な連携支援を実施することができました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

発注案件（2件）のうち1案件については6社に斡旋紹介し、その中の2社から商談申込みがありました。同社には募集結果を説明し、商談申込みを行った2社の企業情報を提供しました。

今後は、同社と商談申込み企業との間で直接商談を進める予定です。

なお、もう1件の発注案件は特殊加工を伴い試作のみを目的とした案件であったため、該当する県内企業がありませんでした。このため試作案件については、社内に対応することとなりました。

今後も、発注ニーズに即した受発注取引支援を進めてまいります。



販売商品：オフィス家具

▶ 参画機関

●駒ヶ根商工会議所

支援を受けて 設計担当 高坂 正和 氏

今回、駒ヶ根商工会議所を通じて長野県産業振興機構の支援を受け、1社との商談を進めることができました。また近隣企業との企画事業を進められ、双方前向きに詳細な打ち合わせを都度行うことができました。新規開発へ前進することができ、非常に助かりました。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5013 ☎ 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

商工会と連携して販路開拓支援を実施

事業者 丸善株式会社

●代表者／丸山 慶四郎 ●所在地／北安曇郡池田町中郷931
●従業員数／33名 ●連絡先／0261-62-2547

事業内容 電子コネクタ組立・検査



▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は、自動車関連製品・省力化設備・生産設備向け電気・電子機器用精密コネクタの製造・組立・検査までを一貫して行う企業です。また、付随するカシメ工程・圧入・溶着等の対応も可能です。生産対応は、全自動組立・半自動組立（両設備共に発注企業から貸与）・手組工程など製品に合わせた多様な生産方式が可能で「高品質・納期厳守を追求し実現する」をセールスポイントにしています。昨年、主力発注企業からの受注が減少したことにより、近隣企業から樹脂製品の検査作業の仕事を取り入れましたが、組立要員の仕事が不足していたため、池田町商工会へ相談をされていました。そこで、池田町商工会から当機構に支援要請があり、販路開拓の支援を行う運びとなりました。

▶ 実施した支援内容

池田町商工会にて同社の概要や支援要望等を確認し、同社への訪問を行いました。要望内容は、製品組立もしくは検査作業が4～5人分で行え、製品サイズは最大A4サイズ迄、設備・治具等を使用する場合は貸与があり、納入先は近郊を希望というのが条件でした。

直近で担当推進員が管内企業にて発



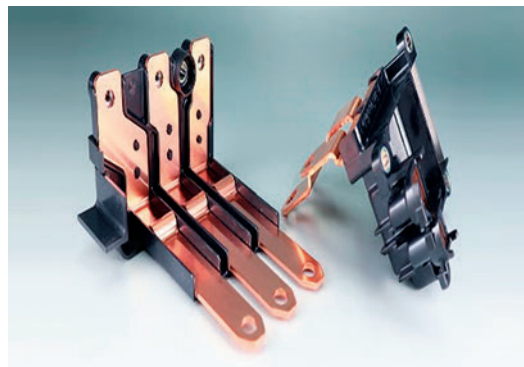
打合せ会議の様子

注開拓活動を行っていた経緯もあり、情報が有ったA社（安曇野市）の組立検査案件の紹介を行いました。A社のニーズにマッチする企業であると認識をいただき、同行訪問を行いました。訪問時には、発注内容の詳細説明や今後の動向、発注側の要望事項、条件等の擦り合わせを行い、対応範囲と今後の課題を確認する事ができました。同社の要望に概ね沿った内容となったため、同社としては初めてのA社へ見積回答をしていただきました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

受諾内容を具体的にしていく過程では、発注側が選定している製品の生産工程・設備の視察、品質管理についての確認・協議を実務者が発注企業に出向き行いました。今後、委託内容が決定され次第、該当製品の見積、検査員の検査能力試験等を経て商談成立となる見込みです。

さらに、同社の既存事業に関わる生産体制や品質管理力が発注企業に評価され、複数の案件受注、取引の伸展につながる可能性が高い状況となりました。また、今後同社は発注先から自動車関連製品の受注を視野に入れているため、必要となるISO9001の認証取得を決定されました。年内の取得を目標に掲げ、販路開拓に向けた「企業変革」の動きにつなげることができました。



組立検査案件の部品サンプル

▶ 参画機関

●池田町商工会

支援を受けて 取締役工場長 宮下 茂光 氏

池田町商工会を通して支援要請をお願いしました。いくつかの案件をスピーディに紹介していただき、A社様を紹介していただいた後は、ポイントとなるところでは打合せにも出席してもらい、話を進めることができました。丁寧な支援をいただきありがとうございました。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5013 📠 026-228-2867

✉ matching@nice-o.or.jp

農薬不使用のこだわり生産者が、首都圏のバイヤーに挑む！

事業者 やよい農園

●代表者／滝沢 篤史 ●所在地／飯山市大字豊田5198 ●従業員数／社員3名、パート2名
●連絡先／090-4847-8567 ●URL／<https://yayoinouen.jimdofree.com/>

事業内容 農薬不使用の米、野菜を使用した加工品の製造販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同農園は2013年6次産業化認定事業者となり、2014年に創業しました。

代表が農薬不使用の米や野菜を栽培し、代表の奥様が総菜、パン、菓子などの製造販売を担当しています。2021年、コロナ禍での補助金を利用してキッチンカーを購入しました。その後は、月に8回のパン、菓子、総菜の移動販売や近隣の道の駅への卸売を通じて売上を伸ばしてきましたが、新しいスタッフ等の雇用が必要となり、より一層の収益確保が必要となりました。そこで、更なる売上げを伸ばすために、首都圏への販路拡大を図るよう提案するとともに、創業10年を迎える節目に、自社を俯瞰的に把握するため、多くのバイヤーから意見を伺える重点支援事業への参加を勧めました。

▶ 実施した支援内容

現状の課題は、同業者とのつながりが希薄であること、そして商談をしても継続性がなかったことです。これらの課題をクリアするべく、まずは6月に開催した「長野県産品商談会（長野会場）」、次に「8月に開催したおいしい信州ふーど発掘商談会in東京」に出展し、県内の同



個別商談の様子



商談の様子

業者及び県内外のバイヤーに周知してもらうとともに、商談やマーケットリサーチに取り組みました。また、重点支援事業では、12社のバイヤーから15分間ずつアドバイスをいただく「求評会」に参加して商品に対するアドバイスだけでなく、今後の方向性や自身では気付くことができない部分への言及もあり、非常に刺激を受けていたようでした。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

同農園の今後の10年を検討するきっかけになれるよう様々な事業にご参加いただきました。特に重点支援事業でのバイヤーからの様々なご意見は、展示会では聞くことのできない内容が多々あり、これからの事業計画を策定する上でたくさんのヒントを得ることができたようです。次年度も適宜商談会にご出展いただきながら、支援してまいります。

支援を受けて 加工担当 滝沢 弥生 氏

FCPシートの作成ポイントから、商談ブースの見せ方、商談における話の内容と時間のペース配分、そして商談後のバイヤーとの繋がり方などを事細かにご支援いただけたのは、今までにできなかった経験です。私たちの意見も尊重いただきながら、温かい丁寧なサポートに、心から感謝しています。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
(長野県庁5階 長野県営業本部)

☎ 026-235-7246 📠 026-235-7387

✉ hanro@nice-o.or.jp

展示会出展で自社商品の新たな価値に気づきました！

事業者

株式会社綿半三原商店

●代表者／野原 佳代子 ●所在地／安曇野市豊科5565番地4 ●従業員数／90名
●連絡先／0263-72-2030 ●URL／https://kochouan.jp/

事業内容

茶葉及び菓子の製造・卸・販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は1874年に安曇野市で創業し、お茶やお菓子の製造・卸・販売を行っています。現在は、長野県内にお茶とスイーツの店「あづみの茶胡蝶庵」として8店舗、ミルクスイーツ専門店「あづみ野ミルク」1店舗を展開しています。

420年の時を重ね、受け継がれたあづみの茶胡蝶庵ならではの、豊かな香りと深い味わいのお茶や抹茶スイーツを通して、心のノスタルジーである「和み」の価値の提供を目指しています。前社長から販路拡大の取り組みについて長野県内だけでなく県外にも拡大したいというご相談がありました。

そこで、当機構が実施する県内外の展示会へ出展していただき、新たな販路開拓のための一歩とされることをご提案しました。

▶ 実施した支援内容

関東圏進出の足掛かりとして、東京池袋で開催した「おいしい信州フード発掘商談会 in 東京」に出展いただきました。

この展示会では「ギフト」として冷凍菓子は保存性もあり需要が高く、中元や歳暮といった催事企画での採用に繋がり、主力商品の「生大福」は試食評価が高く、大手食品問屋との取引口座を開設することができました。また、国内最大規模の展示会「スーパーマーケットトレードショー長野県パビリオン」に出展し、関東圏のみならず関西圏からも商品や取引に関する問い合わせをいただき販路拡大の可能性が広がりました。一方、県内においても、岡谷市で開催した「長野県産品商談会」に出展し、県内の原料を使ったOEMの相談、通販業態のカatalog掲載や小売店での催事販売等の提案がありました。

これらの展示会に出展したことで、多くのバイヤーから商品の強み等について評価をいただく機会となり大変重要な情報の獲得につながりました。



長野県産品商談会の様子

▶ 支援の結果及び今後の展開等

当初の展示会では、安定供給できる定番品を中心に勧めてきましたが、出展回数を重ねる中で、「冷凍菓子」が同社の強みであり、さらに産地直送対応ができるため、ギフトやカatalogでの取扱いの可能性が高いことが分かりました。

展示会はギフト対応ができることをPRして商談を行いました。

その結果、県内外のカatalog事業者や小売店のイベント催事での取扱いが拡大し、実績を伸ばすことができ、それに伴い、

新たな取引先からも声がかかるようになりました。今後は品質管理や食の安全対策をさらに強化し、展示会等に出展していただきながら、新たな胡蝶庵ファンをつくるように支援してまいります。



支援を受けて 取締役 営業本部長 仲田 良直 氏

産業振興機構様からご提案いただきました県内外の展示商談会に参加したことで大手卸売業者の新規口座を開くことができ、販路拡大に繋がっており大変感謝しております。商談会前には説明会を開催していただきバイヤーとのコミュニケーション方法や出展後の営業活動まで親切にレクチャーいただき、商談力・営業力のスキルアップを図ることができていると実感しております。引き続きお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
(長野県庁5階 長野県営業本部)

☎ 026-235-7246 📠 026-235-7387

✉ hanro@nice-o.or.jp

支援メニューの活用と目標管理シートで 持続可能な経営を模索

事業者 合同会社ゆずすけ

●代表者／宮澤 直祐 ●所在地／長野県下伊那郡天龍村平岡961番地
●従業員数／4名、パート従業員（季節）20名 ●連絡先／0260-31-0580 ●URL／<https://yuzusuke.co.jp/>

事業内容 地域資源（ゆず・お茶）集荷・加工・販売

企業の現状及び支援の経緯

同社は、地元天龍村周辺で採れた柚子とお茶などを活用した加工食品の開発・製造・販売する企業で、村出資の天龍農林業公社より、2019年に独立・民営化し5年を迎えました。

当機構の支援は、2020年に始まり、ロゴデザイン制作支援から、各種商談会支援をし、積極的に活用していただいています。

天龍村の周辺では、昔から屋敷林として実生柚子が存在し、貴重な地域資源となっており、「地域にある資源をフルに活用しながら、地域の経済を回していくことが、この小さな村で生まれた企業としての社会的責任」との思いで、販路開拓に取り組んでいます。また、市販品以外に、柚子の果皮・果汁を、県内食品メーカーに供給しています。

しかし、お茶も含め高齢化による担い手不足など多くの課題を抱えており、持続可能性の確保が大きな課題となっています。

実施した支援内容

展示商談会は、積極的に参加していただいています。スーパーマーケットトレードショーは、小間は狭いものの、価格も手頃な卸商社の五味商店が運営するブースを紹介するなど工夫しながら、経費の許す範囲で参加していただきました。

当機構広報誌の「きらりNICEな企業」の取材にご協力いただいた際、起業の経緯から今後の展望を整理したり、決算書の検討をするさなか、柚子の不作などを契機に、「費用対効果をどう評価したら良いか?」「本当に利益貢献している部門はどこなのか?」「地域資源も担い手不足や異常気象など収量の不安定性をどの様に乗り越えればよいのか?」「事業承継もどうすればよいのか?」など課題が山積状態となっていることに気

づき、現在は、引継ぎ支援センターの支援も含めた経営全般の検討・支援を行っています。

支援の結果及び今後の展開等

経営方針・経営計画の再構築から事業承継への道筋を立てるまでの新たな取り組みを開始しました。野球選手の太谷翔平選手も取り組み、現実離れた才能を育んだといわれる話題の手法「マンダラチャート」(図1)を取り入れて、部門別・品目別の損益分析とそれに基づく経営戦略の再構築を行いました。地域資源の柚子・お茶の維持・発展の方策の策定や、各地の成功事例などを参考にし、従業員の方々にも理解していただけるような方法を模索しながら現在も支援を続けています。



展示商談会ブース

業務用商品 損益? ▲▲→●●	得意先別 採算評価 ①○②△...	関係強化先 ・○○○ ・○○○	部門別・ 商品別 構成比	部門別・ 商品別 損益?	部門別・ 評価? ①○②△...	部門別・ 商品別 構成比	部門別・ 評価? ①○②△...	部門別・ 商品別 評価?
皮・果汁 バランス? 強化策?	<売上1> 業務用商品 強化策	損益試算 部門別	強化部門 と対策	<売上2> 市販用商品 強化策	合理化・ 経費削減 対策?	3ヵ年計画 強化部門 と対策	<売上3> 店舗販売 通販など	新部門
3ヵ年計画 部門別 目標管理	具体策1	具体策2	3ヵ年計画 部門別 目標管理	具体策1	具体策2	具体策1	具体策2	具体策3
ゆずの 原料事情	ゆずの 強化方法1	ゆずの 強化方法2	<売上1> 業務用商品 強化策	<売上2> 市販用商品 強化策	<売上3> 店舗販売 通販など	現状構成比 と損益は?	ベンチマーク ・きらいP ・アップルパイ	ベンチマーク ・ロングライフ
その他の 地域産品 の可能性?	<地域原料> 実生ゆず ・天龍茶	ベンチマーク ・棚田再生 ・体験観光	<地域原料> 実生ゆず ・天龍茶	持続可能な 「ゆずすけ」 の再構築	<新部門> ペーカリー ・焼菓子?	方向性	<新部門> ペーカリー ・焼菓子?	3ヵ年計画
天龍茶の 原料事情	天龍茶 強化方法1	天龍茶 強化方法2	<効率化> 強化部門 への投資	<人材育成・ 承継ほか> ベンチマーク	<合理化> 不採算部門 の見直し	具体策1	具体策2	具体策3
強化部門・ 項目の決定	年度別計画 売上・経費	資金調達方法 補助金情報 ベンチマーク	マンダラート	事業承継	地域おこし隊	不採算・ 弱小部門 の明確化	年度別計画 売上・経費	合理化の 部門・商品 サービスは?
効率化の 方向性は? 3ヵ年計画	<効率化> 強化部門 の投資策	投資する 部門・商品 サービスは?	感動体験	<人材育成・ 承継ほか> ベンチマーク	オーナー制度	合理化の 方向性は? 3ヵ年計画	<合理化> 不採算部門 の見直し	ベンチマーク ・筋肉体質構築
具体策1	具体策2	具体策3	具体策1	具体策2	具体策3	具体策1	具体策2	具体策3

図1

支援を受けて 代表社員 宮澤 直祐 氏

辺境の山間地で事業活動を行うためには、広い社会のリアルな価値観がどれだけ自分たちのそれと違っているのかを、しっかりと認識する必要がありました。支援機関の皆様から様々な人・業態・場所・考え方等々を学び組織として一生懸命頑張る術を学びました。これからも前向きであり続けるためにご支援よろしく申し上げます。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
(長野県庁5階 長野県営業本部)

☎ 026-235-7246 📠 026-235-7387

✉ hanro@nice-o.or.jp

新たなマーケット(首都圏の飲食店チャネル)への
販路拡大のためのマッチング

事業者 有限会社ふくろや

●代表者/山岸 規男 ●所在地/中野市中央1-9-16 ●従業員数/5名
●連絡先/0269-22-2021 ●URL/http://park2.wakwak.com/~fukuroya/frame.htm

事業内容 味噌・漬物の製造・加工販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は明和元年(1764年)創業の老舗企業で、家伝の味である「陣屋みそ」は、「清左衛門醸造」として受け継ぎ、地元の方に親しまれながら「信州みそ」の特色を伝えてきました。

近年は、核家族化や食生活の変化に伴い味噌の需要が減少し、大手メーカーの市場シェアが大きくなる中にあっても、蔵出しのこだわり味噌を愛する方に賞味していただきたい一心で、伝統的な製造方法を守り、大量製造には依らない味噌づくりを行っています。

一方で、今後の成長を見据えて新規の販路拡大にも取り組んでおり、限られた営業リソースの中で、国内のみならず海外への販路開拓活動も積極的に行っています。

▶ 実施した支援内容

同社は池袋で開催の「おいしい信州ふーど発掘商談会in東京」に出展した際に、Food Groove Japanの代表と商談を行いました。

Food Groove Japanは、日本の食文化の魅力を発信し、食を育てる活動を行っている団体で、地元食材を活用したイベントの企画や、食の知識を深めるためのワークショップ及び生産者と消費者を直接つ

なぎ、地域コミュニティの活性化を目指しています。以前より、同代表から「新規オープンする飲食店で使用する食材を探している」との相談を受けていたため、同社を紹介し、商談の後押しを行いました。同代表は伝統的な食文化の保護と新たな食の可能性の探求、持続可能な未来をサポートすることを目指していることから、同社の商品づくりに感銘し、商品の取り扱いについて前向きな検討が始まりました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

新規オープンした飲食店において、開業当初より同社の赤味噌と白味噌の2品を定食とディナーメニューに導入いただくことが決まりました。現在では毎月定期的に注文をいただくようになりました。さらに、店内の商品展示・販売スペースでは、小売品としても展開され、来店客が気に入った味噌などの食材をその場で購入できる仕組みで、同社の味噌の売れ行きも好調です。

また、Food Groove Japanではメーカーと消費者をつなぐ交流イベントを開催しており、同社が所在する中野市内の他の事業者にも声をかけ、イベントを開催する方向で話を進めています。

これを一つの成功モデルとして、これからも新たな販路の広がりに対する支援を引き続き行っていきます。



商品を提供している飲食店

支援を受けて 専務取締役 山岸 規伊子 氏

クオリティーの高い飲食店様とお取引させていただきたいというのは、かねてからの弊社の希望でした。

なかなかマッチングできずにおりましたところ、以前から販路のことなどで相談させていただいていた中で今回のお話をいただき、繋いでいただきました。

味噌の種類なども相談に乗っていただき、有意義な取引になりましたこと、大変感謝しております。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2
(長野県庁5階 長野県営業本部)

☎ 026-235-7246 📠 026-235-7387

✉ hanro@nice-o.or.jp

魅力を伝えるトータル支援
信州生姜シロップの商品価値を高め、

事業者 シナノジンジャー

●代表者／牧野 令士 ●所在地／上田市丸子438-1 ●連絡先／090-3558-9206
●URL／<https://shinanoginger.com>

事業内容 有機農業・加工品販売

▶ 企業の現状及び
支援の経緯

代表者はカフェで飲んだ手作りジンジャーエールの味に感動したことをきっかけに、会社員をしながら信州産生姜の有機栽培に取り組み、『信州の生姜しろうぷ』と、製造の際に出る煮詰めた生姜を乾燥させた『信州の生姜糖』を商品化しました。ラベルもご自身で作成したものを使用して、コンビニなどに置いてもらったものの、販売にはつながらず、店舗側から「一見して食品だとわからない」との指摘も受けていました。そこで、「ラベルデザインが問題なのではないか」と、創業セミナーを受けた長野県よろず支援拠点に相談されました。客観的に見て品質と味のクオリティは、市場に広く受け入れられるものでしたが、当時の商品パッケージや自作のPOPでは、商品の魅力が十分に伝わっておらず、ターゲットに響く商品イメージへ刷新する必要性がありました。

▶ 実施した支援内容

相談者が伝えたいこだわりと、消費者が知りたい情報、欲しいと思わせる要素を合致させ、イメージの刷新を試みました。商品をブランディングし、その価値を伝えていくために、まず特長や他との違いを洗い出し、わかりやすく言語化し、それを体現するために必要なビジュアルをトータルで考えていきました。有機栽培、甘さ控えめ、はちみつ入りなどの特長をわかりやすくPOP内で表現しました。商品のネーミングについても、表記を「しろうぷ」から『シロップ』に変更し、ターゲットにマッチさせ、また生姜糖も、性質が伝わり特別感が増すよう『ドライはちみつ生姜糖』としました。ラベルはデザイナーへ依頼し、デザインに対するアドバイスも行いました。



当初のPOPと商品パッケージ



刷新された商品パッケージ

支援を受けて 代表 牧野 令士氏

写真、ビジュアル、文章表現などについて、私の伝えたいこと、商品の特長がいけるような具体的なアドバイスをいただくことができました。会社員としての仕事もある中で、オンラインで面談を受けられるのもありがたく、アドバイスをもとに効率的にPOPの修正作業を進めることができ、想像していた以上のものができ上がり、大変満足しています。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-227-5875 📠 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

サナギタケ冬虫夏草開発製品の事業化及び販路開拓

事業者 株式会社マルベリー

●代表者／樋場 由紀子 ●従業員数／1名 ●連絡先／042-483-9987 ●URL／<https://miletine.com/>
 ●所在地／上田市常田3-15-1 信州大学先進植物工場研究教育センターSU-PLAF信州大学繊維学部内
 （本社：東京都調布市）

事業内容 サナギタケ冬虫夏草の生産及びサナギタケ冬虫夏草エキス配合の自社開発商品販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

高齢者施設の介護士である樋場社長は、乾燥による肌の荒れに悩む高齢者と介護士のため、保湿成分を含むサナギタケ冬虫夏草に着目しました。そこでサナギタケ冬虫夏草の人工培養に取り組んでいる信州大学 繊維学部 野川准教授の研究室を訪問し、約7年の共同研究を経て人工培養に成功しました。2022年には洗顔フォームを開発しましたが、新たな化粧品の要望や商品のブランド化など開発した商品の事業化・販路開拓などが課題となっていました。独自のブランド及び商標の検討のためにINPIT長野県知財総合支援窓口と連携し、事業化・販路開拓などの支援を行うことになりました。



サナギタケ（冬虫夏草）

▶ 実施した支援内容

サナギタケ冬虫夏草を使用した化粧品のブランド化を支援するため、INPITを中心に商標の登録をサポートし（商標登録済み）、独自のブランド『MILET DINE：ミレディーヌ化粧品』を立ち上げました。



ミレディーヌ(MILET DINE)化粧品

さらに、商品の開発意図や期待される効果が消費者に伝わりやすいように、HPやパンフレット、商品の表示内容の改善を支援しました。また、商品の販売が伸びた際にも供給が途切れないよう、生産規模の拡大もサポートし、今後の新製品開発や更なる販売増加に対応するための設備増加

支援も行っています。これにより、企業の成長と持続可能なビジネス展開を後押ししました。なお、生産管理等の経営課題の解決については商工会連合会を通じてエキスパートバンク制度（専門家派遣）を利用しました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

販売ルートの開拓は地道に広げてきました。商品購入のためには、使ってもらい、効果を実感していただくことが必要になります。お客様の声による効果の確認は行っていますが、販売が大きく伸びるためには、知名度の向上が課題となっています。また、販売量の増加などに伴い、サナギタケ冬虫夏草の生産量の向上が望まれます。現状レベルで生産の効率化を向上するだけでなく、今後の展開も踏まえて更なる生産増加にチャレンジするための場所や生産方法の検討を進めるため、引き続き、拡販の支援、生産拡大の支援に取り組んでまいります。

サナギタケエキスの
保湿・抗酸化作用

▶ 参画機関

- 国立大学法人信州大学
- INPIT長野県知財総合支援窓口（(一社)長野県発明協会）
- 長野県商工会連合会

支援を受けて 代表取締役 樋場 由紀子 氏

東京と信州大学を往復しながら商品開発を続けています。思うように進まず資金だけが減っていく状態が続いて、事業断念かと諦めかけた時に、長野県産業振興機構の方々に出会いました。

長野県に貢献できる形で発展させていく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

担当部署

企画連携部／上田センター

〒389-8555 上田市材木町1-2-6

☎ 0268-23-6788 ☎ 0268-23-6673

✉ nice-ueda@nice-o.or.jp

国内最大級「2024国際航空宇宙展」に出展
有望商談を推進

事業者 ゴコー電工株式会社

●代表者／相場 はるか ●所在地／諏訪郡富士見町落合字南原山13414-1
●従業員数／65名 ●連絡先／0266-62-5283 ●URL／<https://www.goko-denko.co.jp>

事業内容 モータ及び特殊モータの設計開発・試作・製造

▶ 企業の現状及び支援の経緯

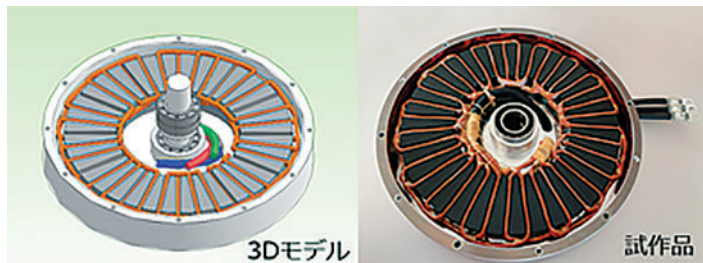
同社は1983年の創業以来、巻き線技術を強みとし、モータの設計・開発・製造に携わってきました。同社の巻き線技術を生かした特殊モータについて、航空宇宙市場への展開を見据え、2021年に航空宇宙・防衛産業に特化した品質マネジメントシステムJISQ9100を認証取得し、エアロマート名古屋2021に出展しました。そこでの商談数は4件と少なかったものの、JISQ9100の取得から2年経過したエアロマート名古屋2023では、航空宇宙産業全体の盛り上がりも手伝って12件の商談がありました。そこで、更に航空宇宙市場に売り込んでいくために2024国際航空宇宙展に出展参加することにしました。

▶ 実施した支援内容

航空・宇宙・防衛産業の国内最大級の展示会である「2024国際航空宇宙展」(東京都、令和6年10月16日～19日、5者出展)が東京ビッグサイトで開催されました。本展示会では世界から23ヶ国／地域、663社・団体(共同出展含む)が集結して航空宇宙産業の力強い発展をアピールしました。当機構では「NAGANO航空宇宙産業クラスターネットブース」



2024国際航空宇宙展



特殊モータ (アキシシャルギャップモータ)

を設置し、同社を含め県内企業・団体5者(同社、羽生田鉄工所(株)、(株)フクシマ、エアロスペース飯田、多摩川精機(株))を出展団体として選抜し、ブースの設計、出展品展示方法のアドバイスや、商談システムへのエントリー支援、また当日はブースへの顧客誘導や、出展品の説明サポート等を行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

主催者発表による4日間の来場者数は、計37,168名と多くの来場者が訪れ、NAGANO航空宇宙産業クラスターネットブースの出展5者は、製品や技術力をアピールするとともに、海外航空機メーカーをはじめ、国内企業各社との商談を行いました。同社は、120を超える企業との名刺交換を行うことができ、現在は4件が進行中です。また、他の参加者からは、「通常の展示会よりも3倍位多くの人と接することができ、有用な情報を入手できた」、「実のある展示会で、多くの商談もいただいた」、「航空、宇宙、防衛産業のトレンドを入手できた」等の感想が聞かれました。

高性能モータで未来を切り開く

ゴコー電工(株)



ゴコー電工展示品

支援を受けて 代表取締役 相場 はるか 氏

2024国際航空宇宙展への出展参加で名刺交換できた数は120を超え、自社製品の既存ユーザーの別部門や、これまで取引のない企業との接点も得られました。自社ではこの展示会を機会に、航空宇宙産業分野の4つの案件が進行中であり大きな収穫でした。航空宇宙産業市場に足掛かりをつくった手応えを感じています。

担当部署

次世代産業部
航空機産業支援センター

〒395-0111 飯田市座光寺3349-1
(エス・バードB棟3F)

☎ 0265-49-8047 📠 0265-49-8048

✉ aerospace@nice-o.or.jp

新たな販売チャネルの構築を見すえた親族内事業承継

事業者 ロリーポップ

●代表者／清水 幸里 ●所在地／飯田市中央道り3-52
●従業員数／1名 ●連絡先／0265-22-8006 ●URL／https://www.instagram.com/lollipop_iida/

事業内容 衣料品販売（子供服中心にメンズ・レディース）



店舗外観



店舗の内観

▶ 企業の現状及び支援の経緯

1990年に子供服中心のセレクトショップとして現代表が創業、2002年隣地の不動産を購入し移転、2010年には大人向け商品の拡充を経て現在に至ります。

創業当時は店舗周辺も人の賑わいがあり、売り上げもそれなりに上がっていましたが、商店街の衰退とともに、ネット販売の台頭、量販店の進出などにより、売り上げは減少傾向となっていました。今後の新たな展開が見込めないと考えた現経営者は、廃業もやむなしと考えるようになりましたが、店舗の運営を手伝ってくれていた娘に相談すると、SNS等の利用により新たな販売チャネルの開拓ができるのではないかと考え、自分が事業承継したいと申し出がありました。

具体的な承継についてどのように進めたらよいか、日頃経営相談を行っている飯田商工会議所に相談し、事業承継・引継ぎ支援センターへの相談取次となりました。

▶ 実施した支援内容

エリアコーディネーターは、長女の承継意思を確認するとともに、今まで経営に関わっていなかったことから、後継者中心に現状の課題を明確にし、今後の事業展開を計画する必要があると判断し、専門家派遣による事業承継計画策定支援を提案しました。

承継計画策定にあたっては、具体的な事業承継の進め方と、今後の事業展開を中心にヒアリングを行い、併せて後継者が経営者としてやらねばならない課題について洗い出しを行いました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

令和6年をもって、開業・廃業届を提出し、事業承継を行う予定ですが、後継者は飯田市の創業コンペに新たな事業展開について応募を行った他、子育て応援フェスにも出店するなど、その他イベントも企画し、店舗の賑わいを創出する努力を始めています。また、SNSの積極的な活用によりフォロワーも順調に増加しています。



二枚看板

▶ 参画機関

●飯田商工会議所

支援を受けて 代表 清水 幸里 氏

事業承継について、どの様に引き継いだら良いか不安がありました。が、商工会議所のパンフレットにて『長野県事業承継・引継ぎ支援センター』のを知り、相談をしたところ、わからないこと等を丁寧にご指導いただき、自社のあり方について今一度見直すきっかけにもなりました。あとは、計画に基づき後継者の娘へバトンタッチを進めていきたいと思っています。

担当部署

長野県事業承継・
引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-219-3825 ☎ 026-219-3826

✉ hikitsugi@nice-o.or.jp

事業承継計画策定支援を機会に 今後の事業展開・方向性を整理・明確化

事業者 有限会社昭和

●代表者／中村 広信 ●所在地／松本市元町1-1-28
●従業員数／32名 ●連絡先／0263-33-4667 ●URL／<https://cleaning-showa.jp/>

事業内容 クリーニング業



▶ 企業の現状及び 支援の経緯

昭和6年創業のクリーニング店、松本に本社を置き、中南信地域を中心に多店舗展開しています。前社長は76歳となり、コロナ禍での業績低下、業界の先行き不透明、自身の健康不安もあり第三者承継も含めて長野県事業承継・引継ぎ支援センターに相談し検討していた中で、長男広信氏が承継することを決断、親族内承継として相談を受けたコーディネーターは面談により事業承継に向けての同社の課題を洗い出し、対応方法についてアドバイスをを行いました。コーディネーターは同社の課題解決のため、専門家とのディスカッションを通してSWOT分析等も行う中で、今後の事業展開を考えていくことが必要かつ効果的であると判断し、専門家派遣による事業承継計画策定支援を提案しました。

▶ 実施した支援内容

SWOT分析、バリューチェーン（同社が提供する付加価値）の確認、経営業務の棚卸、店舗別損益の確認等により、同社の現状について事業分析、財務分析を実施しました。同社の将来の見通し、グループ3社も含めた今後の事業体制の見直しについてアドバイスを行うとともに、本社の事業承継の進め方、売上・損益目標の明示、株式の移転方法等について、専門家とのディスカッション、アドバイスを受けて事業承継計画の策



本社

定を支援しました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

ディスカッションを重ねる中で、令和6年8月期決算後の定時株主総会で専務取締役の長男を代表取締役とする方針を決定し、前社長は取締役顧問として引続き後継者のサポートを行うこととしました。親子間では向き合って承継について話をする機会が中々持てないので、事業承継計画策定支援を通じた検討・ディスカッションは、親族間での目線合わせ、情報共有、引継ぎの良い機会になりました。



支援を受けて 代表取締役社長 中村 広信 氏

父親から代表の引き継ぎを検討し始めたタイミングで、コロナが流行し始めました。今までに経験したことのない状況に、承継もうやむやになっておりました。身内だけでは、先延ばしになってしまう状況の中、承継支援をいただいたことで、無事に引継ぎを終えることができました。この度は、ご支援いただきありがとうございました。

担当部署

長野県事業承継・ 引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-219-3825 📠 026-219-3826

✉ hikitsugi@nice-o.or.jp

事業者 株式会社燕

●代表者／木村 賢太郎 ●所在地／松本市松原36-11
●従業員数／10名 ●連絡先／0263-55-4607 ●URL／https://yentoyen.com/

事業内容 住宅断熱機材販売・施工

▶ 企業の現状及び支援の経緯

平成3年に設立した東京と長野県内を営業エリアとする住宅断熱機材販売施工会社。遠赤外線の床暖房で空気が乾燥せず快適な住空間を提供、また窓周辺の工事の中で内窓設置に重点を置いた省エネに優れた効果の商品を提供しています。
木村前社長は73歳となり、事業承継をどうしたら良いか悩んでいました。同業種の別会社に勤務する長男へ話をしたところ、同僚とともに同社を引き継いで事業展開していきたいとの意向が示されました。そんな折に中小機構から事業承継支援のDMが届き、長野県事業承継・引継ぎ支援センターへの相談申込となりました。

▶ 実施した支援内容

決算書等の資料やヒアリングにより会社の実態を把握し、改善すべき経営課題を洗い出し整理してアドバイスを実施しました。
SWOT分析により同社の事業分析を行い、後継者の長男と同僚が他社で営業していた愛知県を同社の新たな営業エリアとするともに、エクステリア・窓周辺工事の新事業も展開していくことについて、ディスカッションを重ねながら計画策定を支援しま



施工現場



東京の床暖房セミナー会場

した。
さらに、定款の見直し、株式の移転方法、今後の組織体制、決算事務、代表者個人名義の事業用資産の移転、地元金融機関との関係構築等についてアドバイスを実施し、計画書に落とし込みました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

事業承継計画策定を通じて父親の築いてきた会社の知的資産、経営ノウハウ等を長男と情報共有し、引継ぎの機会を設けることができました。
新たな営業エリアで新事業を展開していくにあたり、共通の課題認識と方向性の共有を行う良い機会となりました。



新社長

▶ 参画機関

- 独立行政法人中小企業基盤整備機構
- 松本商工会議所

事業承継計画策定により
親子間のスムーズな引継ぎを支援

支援を受けて 代表取締役社長 木村 賢太郎 氏

親の会社を引き継ぐことは大変なことですが、新たに一から事業を立ち上げる事を考えたら、これで良かったと思います。親が築いてきた基盤をもとに新たな事業を描くことができ、同僚とともに感謝しております。今は取付工事で目一杯のところがありますが、新たな仕入れ先も順調に推移しており、営業面でも愛知県と関東で両立を目指しております。

担当部署

長野県事業承継・
引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-219-3825 📠 026-219-3826

✉ hikitsugi@nice-o.or.jp

事業承継計画策定で芽生えた後継者の自覚

事業者 アシストプラン株式会社

●代表者／飯田 岩雄 ●所在地／長野市吉田4丁目19番19号
●従業員数／20名 ●連絡先／026-213-0022 ●URL／<https://www.assistplan.jp/>

事業内容 情報通信業 自動車整備工場向けソフト開発



本社外観

▶ 企業の現状及び支援の経緯

同社は1995年（平成7年）、現在の代表と専務で、自動車整備業界向けコンピューターソフトウェアの開発・販売、自動車板金業界向け見積システムの販売、各種システムの開発・販売業として創業しました。現在、従業員20名、長野本社、名古屋支店、秋田・埼玉・静岡・新潟・石川に営業所を配置しています。創業より同社で開発するシステムは、利用者の視点に立って開発されているとの評判であり、業容も順調に拡大してきました。

代表が65歳となり、70歳（令和11年）を目途に長男への承継を模索していたことから、取引金融機関に相談し、長野県事業承継・引継ぎ支援センターへの相談取次となりました。

同社は、創業時から社長、専務による二頭体制で業容拡大を図ってきており、持ち株比率も同一であり、それぞれの長男への事業承継とその後の資本政策や経営権をどうしていくのが課題と考えられました。相談を受けたエリアコーディネーターは、代表、専務、後継者である代表長男智也氏、専務長男雄暉氏と面談し事業承継に向けての課題を見える化しました。

▶ 実施した支援内容

代表、専務のそれぞれ長男が同社に勤務しており、次期後継者となることから、今後の資本政策・株式移転方針をどうするのか、専門家（税理士）を派遣し、代表、専務、各々の後継者、専門家が参加する形で事業承継計画の策定支援を実施しました。



事務所風景

事業承継計画を策定する中でSWOT分析を実施し、同社の強みや経営課題を洗い出したほか、事業承継を機にさらに会社を成長、発展させるための「基本方針」を確認すると同時に、現経営陣が退任までにやっておく課題と、後継者である代表長男と専務長男が次世代の経営を担うために更なる連携強化を目指すことを確認しました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

専門家派遣事業を実施した結果、代表、専務、各々の後継者共に事業承継に向けての課題認識の共有化が図れ、今後の経営方針のベクトル合わせができました。

事業承継計画策定により、資本政策、株式移転・集約に向けた方針が明確となり、承継に向け取り組むべきことが整理できたと同時に、後継者二人の承継に向けた覚悟ができました。



▶ 参画機関

●取引先金融機関

支援を受けて 代表取締役 飯田 岩雄 氏

事業承継についてまだまだ先の話と考えておりましたが、事業承継・引継ぎ支援センターのコーディネーターや専門家派遣の税理士の先生にご指導・ご支援をいただき、具体的な事業承継計画が策定できました。おかげさまで後継者と経営方針の共有ができ、今後の事業承継が具現化できました。

担当部署

長野県事業承継・
引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-219-3825 📠 026-219-3826

✉ hikitsugi@nice-o.or.jp

事業者 巴協栄リネン株式会社（巴屋グループ）

●代表者／武田 揚介 ●所在地／松本市平田東2-7-1
●従業員数／291名 ●連絡先／0263-86-0316 ●URL／<https://www.tomoeya-group.co.jp/linen/>

事業内容 リネンサプライ事業▶ **企業の現状及び支援の経緯****100年を迎える事業を承継・
さらなる進化をはかりたい**

巴屋グループの中核である「巴屋」の後継者である相談者（相談当時、子会社である同社巴協栄リネン専務）は、幼少期からリネン工場と関わってきました。100年を迎えるこの事業をいづれ託される、そんな周囲の期待を背負いつつ、社員の幸せのため、笑顔のため「新たな組織づくりで進化をはかりたい」という思いを温めてきました。現状は、相談者自ら学卒社員を育て、定着率を向上させるなど成果を上げる一方で、事業承継や人事制度、社員育成の課題は多岐にわたり苦心していました。そうした中、金融機関の担当者とともに、長野県よろず支援拠点に相談がありました。

▶ **実施した支援内容****互いの強みを生かした「思いの事業承継」**

まず、すぐ制度を作るのではなく、巴屋グループの3代目社長、4代目となる相談者（専務）、それを支える幹部の強みを生かした「思いの事業承継」から着手しました。

幹部とともに人事ブランディング「育ち・育てる」

つぎに「100年企業の人事ブランディング」を提案し、人事委員会（毎月）を発足して、幹部と検討を重ねました。人事制度と育成が課題でしたが「人が

入らなければ育成も進まない」との考えから、採用活動に着手し、年間休日を増やす取り組みを実施しました。その後、幹部育成の強化を図るため、ポリテクセンター長野の活用を提案し、幹部とともに新しい人事制度を作り、幹部主催による説明会の実施まで支援しました。



相談者・武田揚介氏

▶ **支援の結果及び今後の展開****人事ブランディングにより****売上・採用・事業拡大を実現**

「育ち・育てる」をテーマに掲げ、年間休日を23日増やした結果、ハローワークから8人の採用に成功しました。事業承継後、同社の売上は前期比121%、巴屋グループ全体では前々期比で前期120%を達成し、さらに、コインランドリー・フランチャイズ事業も新たにスタートしました。また、人事委員会を通じて、幹部が大きく成長し、その影響で、部下社員も着実に育ってきています。今後も笑顔と「シンカ（進化）」のため、次の100年、その先へつながる支援を予定しています。

▶ **参画機関**

- 長野県能力開発促進センター（ポリテクセンター長野）
- 取引先金融機関



「育ち・育てる」育成面談

支援を受けて 代表取締役会長 武田 揚介氏

ありたい未来を伝えるだけでなく、その未来を達成するための働き方を一緒に考える「社員と共に考える大切さ」を実感しました。人事制度導入により新卒者にも自分の将来の見える化をしてもらえました。100年後も続く企業にするため、社員が自らやりたいことを後押しするトップでありたいと思っています。

担当部署**長野県よろず支援拠点**

〒380-0928 長野市若里1-18-1
（長野県工業技術総合センター3階）

☎ 026-227-5875 📠 026-227-6086

✉ info@nagano-yorozu.go.jp

100年企業の人事ブランディング
「育ち・育てる」売上・採用・事業拡大を実現

新商品開発研究会 個別企業研究で「毛髪探偵」の開発・販売戦略作り

事業者 コトヒラ工業株式会社

●代表者／手塚 仁也 ●所在地／東御市滋野乙1320
●従業員数／298名 ●連絡先／0268-63-0001 ●URL／<https://www.kotohira.biz/>

事業内容 産業機械装置のOEM製造、自社ブランド製品の開発、製造、販売

▶ 企業の現状及び支援の経緯

新商品開発・製品サービス研究会では、長野県工業技術総合センターの協力を得て、新事業や新商品を開発するためのプロセスやツール、成功事例や失敗事例、市場調査や顧客ニーズの分析方法、戦略立案、アイデア出しやローンチなど、新商品開発の各ステップにおける基本要素を計4日間のセミナーで学びます。セミナー終了後は、希望する企業を対象に個別企業研究を実施して、内容の理解だけでなく、具体的な成果を上げることを目的に支援を行います。本年度は、コトヒラ工業株式会社が個別企業研究に参加され、発売予定の毛髪検知システム「毛髪探偵」の開発・販売戦略作りをテーマに検討することになりました。



毛髪検知システム「毛髪探偵」

【毛髪探偵とは】

AI画像処理で食品工場用ユニフォームに付着した毛髪を最短5秒で確実に検知し、付着箇所を画面に表示します。表示された毛髪を粘着ローラー等で除去することで現場内への毛髪の持ち込みを防止することができ、食品への毛髪混入事故のリスクを大幅に低減します。

▶ 実施した支援内容

2024年7月の計4日間のセミナー終了後、2024年9月～2025年1月まで計5日間、実際の製品開発現場にて、毛髪検知システム「毛髪探偵」の開発

と販売戦略作りを目的に、ラーチマネージメントリサーチの村岡正一先生の個別指導会を実施しました。

■個別指導会で実施した内容

- ・販売ターゲットの明確化
 - ・お客様の声の整理とVOC分析による顧客ニーズや問題点の把握
 - ・品質機能展開（QFD）による顧客が製品に求める品質の明確化
 - ・顧客に響くキャッチフレーズの作成と他社製品との差別化
 - ・新規販売方法（代理店等）の開拓
 - ・適正価格の設定とコストダウン策の検討
- など多岐にわたり指導をいただきました。



個別企業研究の様子

▶ 支援の結果及び今後の展開等

計5日間の指導により、顧客の生の声を製品開発に反映する手法やコストダウン策、最適価格の設定、他社製品との差別化など、販売戦略を明確にすることができました。早期の製品発売に向けて補助金の活用などもご案内させていただく予定です。また、得られた成果は2025年度の新商品開発研究会の中で事例発表を計画しています。今後、商品開発手法をさらに広く周知するべく、長野県工業技術総合センターと連携し、新たに導入セミナーの開催、レベルアップしたワークショップと個別企業研究などの場を提供してまいります。

▶ 参画機関

- 長野県工業技術総合センター 材料技術部門

支援を受けて 営業部／開発部 部長 竹内 伸顕 氏

PPM分析を中心に事業全体の方向性のアドバイスも受け、戦略を見直す良い機会となりました。VOC整理ではシーズや方策を考えがちでしたが、顧客視点でポジティブに捉える重要性を実感しました。コストダウン手法の着眼点を学び、購入品の見直しを進める中で他メーカーを紹介いただき、コスト削減につながり感謝しています。

担当部署

諏訪センター

〒392-8601 諏訪市上川1-1644-10
(諏訪合同庁舎1階)

☎ 0266-53-6000 (内線2664)

☎ 0266-57-0281

✉ nice-suwa@nice-o.or.jp

NICE長野コラボネットは
意欲ある企業を産学官連携で支援します

左：信州大学 遠藤守信 特別名誉教授 講演、右：エア・ウォーター地球恵みファーム・松本視察



▶ 企業の現状及び支援の経緯

新技術や新事業展開を狙う北信地区の企業31社からなるNICE長野コラボネットは、地域企業、大学・研究機関、公共団体との産学連携による付加価値創出を目指す集まりです。北信地区の意欲ある企業が参集し、最新の技術動向や課題を共有する中での会員相互のコミュニケーションを大事にしています。その結果、地域企業間のネットワークが形成され、時節に合った会員発表、講演会、視察会などや、補助金などの支援事業の紹介を通じて、新技術、新事業に関する共同研究などを支援しています。また、毎年、意欲ある企業が参画し、会が活性化していることも特徴であり、更なる大学・研究機関、先進企業からの最新技術情報を知りたいという希望が寄せられています。

▶ 実施した支援内容

【NICE長野コラボネットの概要】

NICE長野コラボネットでは、年4回の例会を開催しました。第1回例会では、信州大学の女性初の工学部長である香山瑞恵氏に、IoT教育の現状と将来について講演いただき、会員発表として、不二越機械工業㈱からパワー半導体のプロセス技術について紹介いただきました。第2回例会では、新たな試みとして、産学連携の取組事例などについてディスカッションを実施しました。第3回例会では、先進企業の視察会として、「エア・ウォーター(株)地球恵みファーム・松本」を見学しました。第4回例会では、ニッチでユニークな事業を展開するエムケー精工(株)、アーデントコメッツ(株)の2社から、事業紹介をしていただ

き、信州大学の遠藤守信先生から、浄水技術のイノベーションについて講演いただきました。

【紹介した支援事業】

各種支援事業の中から、「長野県プロフェッショナル人材戦略拠点事業」など、会員企業の要望に沿った支援制度を紹介しました。

令和6年度 NICE長野コラボネットの開催概要一覧	
第1回例会・記念講演	会員発表：「シリコン半導体の加工について」 不二越機械工業㈱ 記念講演：「共に学び、共に進む 工学の異分野融合から生まれる未来」 信州大学
第2回例会	講演会および討論会：「金属加工系中小企業の2030年を見据えた環境変化の予測と技術開発～VUCAの時代を生き抜く先読みのリーダーシップ～」 (株)小松精機工作所
第3回例会	視察会：「エア・ウォーター地球恵みファーム・松本」 講演会：「エア・ウォーターのグリーンエネルギーの取組紹介」 エア・ウォーター㈱
第4回例会	会員発表①：「これが欲しかった！？エムケー精工のすき間商品」 エムケー精工 会員発表②：「大変革期を現場視点で考察 モビリティ業界の最先端グローバル動向」 アーデントコメッツ(株) 講演会：「浄水技術のイノベーション～SDGsとTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)への貢献を目指して～」 信州大学

▶ 支援の結果及び今後の展開等

変動要素が多い社会環境にあって、会員発表、講演会、視察会をタイムリーに開催することによって、新技術、新事業を確立する上での産学連携の重要性や、最新のSDGsの取組について理解を深めることができました。また、各種支援事業の中から、「長野県プロフェッショナル人材戦略拠点事業」を通じて、会員企業2社に専門性の高い人材を紹介することができました。今後も、大学・研究機関、先進企業からの最新技術情報を得るようして、企業の意識改革を促し、企業交流の場や支援制度などの情報を提供して新技術、新事業開発を支援してまいります。

▶ 参画機関

- 長野県プロフェッショナル人材戦略拠点

支援を受けて 参加者の声

- ・その時の旬の話題を提供いただいており、いつも興味深く聞くことができます。
- ・工学系大学の話が今後も聞きたいです。どのような企業とコラボしているか、どのような研究をしているかなど、先進的な話が聞けてためになります。

担当部署

長野センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-225-6650 📠 026-225-6711

✉ nice-nagano@nice-o.or.jp

デザイン思考ワークショップの開催 新しい事業や価値の創造、地域創生のために

▶ 企業の現状及び支援の経緯

新しい企画や商品開発に悩む企業を支援するため、当センターでは【デザイン思考】を活用したワークショップを開催しています。

【デザイン思考】とは、人への共感を起点に潜在的なニーズを掘り起こし、事業化につなげる思考法です。この方法は、経済産業省の推奨する「デザイン経営」の根幹をなし、企業の競争力を大きく向上させる手法として注目されています。当センターのワークショップは、実践を通じて理解を深める内容で、多くの参加者から高い評価を受けています。

一方で、まだ【デザイン思考】を知らない方も多く、普及が課題となっています。そこで、無償のオンラインセミナーを開催し、基礎を学んだ後に有償のワークショップで実践的に学ぶ仕組みを提供しています。

▶ 実施した支援内容

1. 会場とオンライン併用の無償セミナー

「地域創生のために課題を探せ！」

業界も顧客も気づいていない真のニーズを発見し、新たなビジネスチャンス創造するデザイン思考について知っていただくために2時間のセミナーを開催しました。

また、会場参加の方には名刺交換や、質疑の時間も設けました。

2. デザイン思考ワークショップ

2日間のワークショップ

ワークショップでは、2日間の受講でデザイン



ワークショップ初日

思考の概要と、その5つのプロセス（共感・問題定義・創造・試作・テスト）について具体的な課題を設定して、グループに分かれてディスカッションを行うなかで体験して学んでいただきました。

一連のプロセスを体験学習し、職場での実践につなげていただくようにしました。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

従来の考え方とは異なる顧客の真のニーズにアプローチするための手法があることを理解してもらうことができると共に、社内へデザイン思考を展開していきたいとおっしゃっていただけたことからデザイン思考の広がりを進めていくことが、今後の県内企業にとっても有益だと考えています。



オンラインセミナー



グループごとに課題に取り組む参加者

支援を受けて 参加者の声

- ・ワークショップ形式で進行されたことで、講義内容が実践的で理解しやすかったです。
- ・技術や機能に偏りがちな開発の方向性を見直す良い機会となりました。
- ・デザイン思考の具体的な事例紹介や他社の実例を交えた説明は非常にわかりやすく、多くの気づきや発想の転換を得ることができました。

担当部署

松本センター

〒390-0852 松本市島立1020
(松本合同庁舎2階)

☎ 0263-40-1780 📠 0263-47-3380

✉ nice-matsumoto@nice-o.or.jp

ロボット活用による自動化を目指す企業向けに、
先進企業見学会を開催

▶ 企業の現状及び支援の経緯

製造業を取り巻く環境が大きく変化中、これまで言われてきた課題である「人手不足」に加え、最近では「人件費・原材料・エネルギー費の高騰」も深刻化しています。中小製造業が生き残っていくためには、ロボットの活用などによる自動化や改善活動による生産性向上がこれまで以上に重要となります。

伊那センターでは、こうした中小企業の製造力強化活動を支援するため、積極的なロボット活用・自動化の取組を行っている先進企業の見学会を毎年実施しています。

▶ 実施した支援内容

先進企業見学会

(産業用ロボット活用に向けて)

開催日：令和6年11月22日

見学先：セイコーエプソン株式会社

豊科事業所・富士見事業所

内容：同社は、多種類のロボットを開発・生産・販売し、自社の生産工程でもロボットを活用しています。今回は、地域企業の自動化・ロボット導入の取組に役立てばと全面的にご協力をいただきました。初めに豊科事業所を訪問し、ロボット活用・自動化に関するセミナーを受けた後、3班に分かれて新たに完成したロボットデモルームで、様々な製造・検査工程などへのロボット活用ケースについて、実機の動作の様子なども確認しながら説明を聞きました。その後、同社の富士見事業所へ移動し、自社ロボットを組み込んだロボット製造自動化ラインを見学しました。

▶ 支援の結果及び
今後の展開等

今回の見学会では、セミナー→デモルーム見学→事業所紹介→ロボット導入ラインの見学というステップを踏んだことで、参加者からはとても

理解が深まったとの感想が多く聞かれました。また、参加者からの質問に対し、同社からは、具体的な多くのアドバイスをいただき大変有意義な機会となりました。

参加者アンケートでも、こうした見学会の開催ニーズが多かったことから、今後も「ロボットの導入・活用」、「自動化」をテーマとしたセミナーや見学会を企画してまいります。

製造力強化活動に取り組まれている企業の皆様のご参加をお待ちしております。



ロボット活用・自動化に関するセミナー



ロボット デモルーム見学

支援を受けて 参加者の声

- ・自動化するコツや考え方を実際の経験談より学ぶことができ、とても良かったです。導入事例の紹介もありイメージがわき、大変参考になりました。
- ・先端企業の現場で装置を作っている方、現場管理の方等の話が聞けて非常に参考になりました。また、近隣の企業様と一緒に見学でき、ロボット導入・自動化装置を検討していることが分かり励みになりました。

担当部署

伊那センター

〒396-0041 伊那市西箕輪2415-6
(伊那技術形成センター内)

☎ 0265-76-5668 📠 0265-73-9023

✉ nice-ina@nice-o.or.jp

「サーキュラーエコノミーイノベーションフォーラム」 (Matching HUB NAGANO) 2024を開催

▶ 企業の現状及び支援の経緯

サーキュラーエコノミー（循環型経済：以下「CE」という）のスタートアップイベントとして開催した2023年のCEシンポジウムに続き、CEイノベーションフォーラムとして新たに開催しました。本フォーラムは長野県産業界等のCEの事例発表の場と位置づけ、産学官連携の強化と県民への周知を目的としています。関東経済産業局、信州大学、北陸先端科学技術大学院大学（Matching HUB*）、ARECの後援を受け、北陸地域の大学や産業界との連携を促進させ、横展開を図っています。経済産業省のサーキュラーパートナーズ（CPs）の活動にも位置づけています。

*Matching HUBとは、北陸先端科学技術大学院大学が中心となって地域の大学や企業などのマッチングを図り、新製品・新事業につながる種を作る地方創生、地域活性化の取り組みです。

▶ 実施した支援内容

本フォーラムは、特別講演、ブース展示、展示者のショートプレゼンテーションの構成としました。特別講演は、（一社）サーキュラーコットンファクトリーの代表理事 渡邊智恵子様から、繊維のゴミを資源にするプロジェクト（繊維から紙へ、繊維から繊維）の話伺いました。ブース展示及び展示者のプレゼンは、「わが社のCEの実践」をテーマに、CEの実現を目指している長野県企業、北陸地域などの近県の先進企業、大学や支援機関から33ブースの展示と17件のプレゼンをしていただきました。各ブースでは活発なディスカッションが行われ、新しい協業が生まれています。お互いのブースを見ることによって刺激を受けたとの感想も聞いています。

▶ 支援の結果及び今後の展開等

企業99名、大学・行政・支援機関63名、計162名（交流会：67名）と予想以上の参加者を



フォーラムの特別講演の様子

得て盛大に開催することができました。ブース展示をされた企業を含め、CEを事業化している企業は極めて少ないのが現状です。CEの社会実装のためにも、本フォーラムを通じて他社・他機関から大いに刺激を受け切磋琢磨していただけるよう、また参加者の希望もあるため継続して開催していく予定です。

▶ 参画機関

- 経済産業省関東経済産業局 ● 国立大学法人信州大学
- 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学



ブース展示の様子

支援を受けて 参加者の声

- ・ CEを推進する具体的な支援策を期待しています。貴機構がその橋渡し役として、企業、自治体、市民を結びつけ、長野県全体がCEのモデル地域として成長することを願っています。
- ・ 多くのCEの取り組みを創出し、今回のフォーラムのような機会を通じて今後も情報提供していただきたいです。「CEを実践するうえでの課題」の解決にもつながるものと考えます。

担当部署

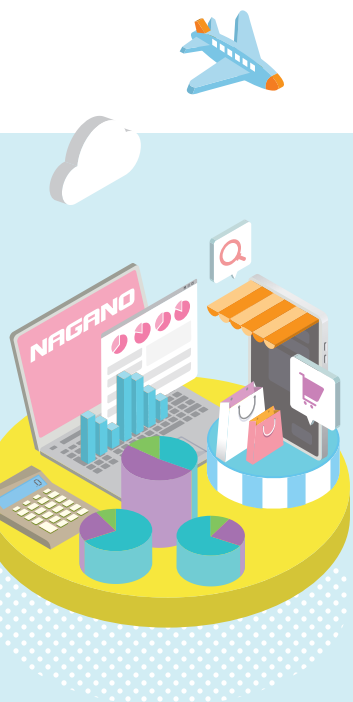
グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1
(長野県工業技術総合センター3階)

☎ 026-217-1634 📠 026-226-8838

✉ green-innv@nice-o.or.jp

ACCESS



ご相談窓口 & お問い合わせ先

総務企画本部

総務管理部 TEL.026-226-8101
企画連携部 TEL.026-227-5803

新産業創出支援本部

次世代産業部 TEL.026-217-1634
・信州医療機器事業化開発センター
・航空機産業支援センター
飯田サテライト TEL.0265-49-8047
グリーンイノベーション推進部 TEL.026-217-1634
(グリーンイノベーションセンター)
ITバレー推進部 TEL.026-217-1635

地域センター

長野センター TEL.026-225-6650
上田センター TEL.0268-23-6788
松本センター TEL.0263-40-1780

経営支援本部

経営支援部 TEL.026-227-5028
長野県よろず支援拠点 TEL.026-227-5875
マーケティング支援部 TEL.026-227-5013
・消費財チーム TEL.026-235-7246
企業再生支援部 TEL.026-227-6235
(長野県中小企業活性化協議会)
事業承継・引継ぎ支援部 TEL.026-219-3825
(長野県事業承継・引継ぎ支援センター)

諏訪センター TEL.0266-53-6000
(内線2664)
伊那センター TEL.0265-76-5668

公益財団法人長野県産業振興機構

〒380-0928 長野市若里1-18-1 長野県工業技術総合センター 3 階
TEL.026-226-8101 (代表) FAX.026-226-8838 URL : <https://www.nice-o.or.jp/>

